第２７回（令和４年度第１回）
セーフコミュニティ 児童虐待防止対策委員会

《会　議　次　第》

日時：令和 4 年 6 月 29 日(水)　14:00～
場所：久留米市公社会館メルクス 3 階

１．開会挨拶

２．自己紹介

３．報告事項

（１）今後の主なスケジュールについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P2

（２）セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について
・・・　P3～P26

４．協議事項

（１）2021(令和 3)年度実績及び 2022(令和 4)年度方針（案）について・・　P27～P31

（２）事前指導のプレゼン資料（案）について　・・・・・・・・・・・・・・　別紙

（３）広報啓発について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P32

５．その他

（１）合同対策委員会におけるワークシートに関する報告　・・・・・・・・　P33～P37

６．　閉会

児童虐待防止対策委員会

対策委員会委員名簿　（順不同、敬称略） 任期：R4.7.31まで

	団体等名称	役職	委員名
1	NPO法人　ル・バトー	代表理事	吉岡　マサヨ
2	久留米市民生委員児童委員協議会	主任児童委員部会長 （合川校区主任児童委員）	佐田　典子
3	久留米市私立幼稚園協会	教育研究委員 （学校法人九州聖公学園理事長）	早川　成
4	一般社団法人　久留米市保育協会	ゆりかご保育園　園長	古賀　誠司
5	NPO法人　にじいろCAP	代表理事	重永　侑紀
6	NPO法人　子育て支援ボランティアくるるんるん	理事	下川　利由子
7	久留米市小・中学校PTA連合協議会	PTA家庭教育委員	河津　季仁子
8	久留米市校区まちづくり連絡協議会	幹事（田主丸校区まちづくり振興会会長）	緒方　浩一
9	福岡県久留米児童相談所	相談第一課長	古賀　智美
10	久留米警察署	少年課長	泉沢　晃一
11	久留米市子ども未来部こども子育てサポートセンター	所長	清水　知子
12	久留米市子ども未来部子ども政策課	課長	山崎　貴之
13	久留米市子ども未来部家庭子ども相談課	主幹	寺松　恭子
14	久留米市教育部学校教育課	課長	薄　弘典

事務局：子ども未来部家庭子ども相談課

セーフコミュニティ年間スケジュール【令和4年度～令和5年度】

※セーフコミュニティ国際認証（再々認証）の取得を想定した場合のスケジュール

1．報告事項
（1）

業　務		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			R4年度												R5年度								
SC推進組織						● 調整会議 ● 本部会議	● ①推進協議会 ・R3実績R4方針 ・事前指導の内容・日程 ・プレゼン資料			再々認証事前指導	年間活動報告書 （本番） ②推進協議会				● 調整会議 ● 本部会議	● ①推進協議会 ・R4実績R5方針 ・現地審査の内容・日程 ・プレゼン資料 ・申請書提出（7月）			再々認証現地審査	（本番） ②推進協議会		● 協議会委員の改選	年間活動報告書 再々認証式典・SCフェスタ
対策委員会		対策委員会合同		5～6月中旬 ①対策委員会 ・R3実績R4方針 ・事前指導の内容・日程 ・ワークショップ ・プレゼン資料案			7月下旬～8月 対策委員会 （正副委員長） ・事前指導に向けて ・プレゼン資料（最終） ● 委員の改選			● 本番直前 委員長リハ	（本番） ②対策委員会		③対策委員会 ・ワークショップ ・事前指導の講評について		4月20日頃まで ①対策委員会 ・R4実績R5方針 ・現地審査の内容・日程 ・ワークショップ ・プレゼン資料案				● 本番直前 委員長リハ	（本番） ②対策委員会	R5年度内に開催 ③対策委員会 ・現地審査の講評について	
外傷等動向調査委員会		書面開催		①外傷委員会 ・各対策委員会の状況報告 ・プレゼン資料(案)			外傷委員会 （正副委員長） ・事前指導に向けて ・プレゼン資料(最終) ● 委員の改選			● 本番直前 委員長リハ	（本番） ②外傷委員会		③外傷委員会 ・事前指導の講評について		4月20日頃まで ①外傷委員会 ・各対策委員会の状況報告 ・プレゼン資料(案)				● 本番直前 委員長リハ	（本番） ②外傷委員会	R5年度内に開催 ③外傷委員会 ・現地審査の講評について	
申請書									（案）申請書 申請書作成準備		12月～1月 申請書(案)作成		JISCと調整	3月 [各事務局] ・加筆修正	JISCとの調整期間 2回目(最終)	5月 英訳	6月 申請書 提出						
プレゼン資料						対策委員会後 プレ資料 提出 ⇒JISCと調整①		JISCと 調整②(最終)	英訳	10月末 英訳版 完成			2～4月 現地指導に向けて プレ資料修正 JISCと調整			JISCとの 調整期間(最終)	英訳	7月 日本語版・ 英訳版 完成					
広報	You tube				外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待防止		学校安全		高齢者の安全		
	広報くるめ					外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待防止		学校安全		高齢者の安全	
	SC通信				標語募集	外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待防止		学校安全		高齢者の安全	

9月末
日本語版
確定

4月末
日本語版
確定

5月末
日本語版
確定

１．報告事項（2）

久留米市
セーフコミュニティに関する実態調査
報告書

令和３年10月

久留米市

第１章　調査の概要

１．　調査の目的

ケガや事故の予防を目的とした市民、関係機関、団体との協働による「セーフコミュニティ」活動に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指している。本調査は、本市のセーフコミュニティの取り組みの基礎資料として、市民の経験や考えなどを把握する目的で、実施したものである。

２．　調査対象

市内に居住する 15 歳以上の男女 2,500 人
［対象者抽出方法］住民基本台帳からの層化二段無作為抽出

３．　調査期間

［調査開始］令和 3 年 6 月 16 日［調査期限］令和 3 年 6 月 30 日

４．　回収結果

設定標本数（人）	有効回収数（人）	有効回収率（%）
2,500	1,275	51.0%

※郵送での有効回収数 983 人、電子申請での有効回収数 292 人となっている。

５．　集計・分析上の注意

- 図表中の「N」はサンプル数（回答者数）を示す。
- 図表中の値は、原則として回答数を 100 とした場合の構成比（%）で示した。端数処理（小数点第 2 位を四捨五入）のため、その合計が必ずしも 100.0%にならない場合がある。なお、複数回答（2 つ以上の選択肢を回答）は原則として 100%を超える。
- 年代別等のクロス集計は、上段が実数、下段が構成比を示しており、回答に年代等不明（無回答）がある場合、各項目のサンプル数の合計が全体サンプル数と合致しない場合がある。なお、全体の割合に比べて 5%以上高い実数と割合は、無回答を除き強調している。
- 文中の【属性別特徴】【設問間別特徴】は、各属性の傾向を読み取るため、全体の割合より 5 ポイント以上高く、各属性の標本数が 30 サンプル以上の場合に原則言及している。各属性の標本数が 30 サンプル未満である場合、統計的な傾向を読みとるには困難であることから、割合に言及していないことがある。

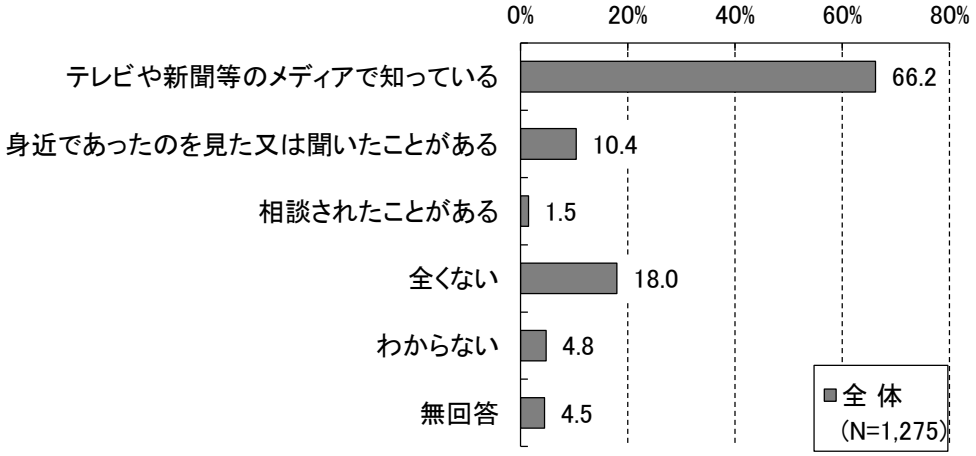
４「児童虐待防止」について

児童虐待を見聞きした経験

問 6. 下の表のような行為が児童虐待にあたります。あなたは、これまで児童虐待を見たり聞いたりしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

児童虐待について、8 割弱の人は「見聞きしたことがある」

●児童虐待を見聞きした経験について、「テレビや新聞等のメディアで知っている」が 66.2%で最も高い。



【属性別特徴】

●「テレビや新聞等のメディアで知っている」の割合を性別・年代別でみると、男性・65～69 歳、女性・30～39 歳、女性・45～59 歳が、全体の割合に比べて高い。

●「身近であったのを見た又は聞いたことがある」の割合を性別・年代別でみると、女性・30～44 歳、女性・50～59 歳が、全体の割合に比べて高い。

4「児童虐待防止」について

◆表　性別・年代別◆

			サンプル数	テレビや新聞等のメディアで知っている	身近であったのを見た又は聞いたことがある	相談されたことがある	全くない	わからない	無回答
全　体			1,275 100.0	844 66.2	132 10.4	19 1.5	229 18.0	61 4.8	58 4.5
性別	男性		491 100.0	324 66.0	39 7.9	8 1.6	99 20.2	27 5.5	16 3.3
	女性		766 100.0	509 66.4	93 12.1	10 1.3	128 16.7	32 4.2	40 5.2
性別・年代別	15～19歳	男性	21 100.0	13 61.9	3 14.3	0 0.0	4 19.0	2 9.5	0 0.0
		女性	27 100.0	18 66.7	2 7.4	0 0.0	5 18.5	**3** **11.1**	0 0.0
	20～24歳	男性	18 100.0	12 66.7	0 0.0	1 5.6	**5** **27.8**	1 5.6	0 0.0
		女性	24 100.0	**18** **75.0**	2 8.3	0 0.0	3 12.5	1 4.2	0 0.0
	25～29歳	男性	17 100.0	**14** **82.4**	1 5.9	0 0.0	2 11.8	0 0.0	0 0.0
		女性	28 100.0	**21** **75.0**	3 10.7	0 0.0	3 10.7	2 7.1	1 3.6
	30～34歳	男性	19 100.0	**14** **73.7**	1 5.3	1 5.3	4 21.1	1 5.3	0 0.0
		女性	38 100.0	**28** **73.7**	**8** **21.1**	1 2.6	2 5.3	1 2.6	0 0.0
	35～39歳	男性	33 100.0	20 60.6	4 12.1	0 0.0	**8** **24.2**	2 6.1	0 0.0
		女性	59 100.0	**44** **74.6**	**11** **18.6**	0 0.0	5 8.5	4 6.8	0 0.0
	40～44歳	男性	32 100.0	22 68.8	4 12.5	1 3.1	5 15.6	3 9.4	0 0.0
		女性	71 100.0	48 67.6	**13** **18.3**	2 2.8	13 18.3	0 0.0	1 1.4
	45～49歳	男性	43 100.0	28 65.1	4 9.3	0 0.0	9 20.9	2 4.7	1 2.3
		女性	61 100.0	**46** **75.4**	7 11.5	1 1.6	5 8.2	3 4.9	1 1.6
	50～54歳	男性	40 100.0	28 70.0	3 7.5	1 2.5	7 17.5	2 5.0	0 0.0
		女性	50 100.0	**37** **74.0**	**11** **22.0**	2 4.0	6 12.0	2 4.0	0 0.0
	55～59歳	男性	35 100.0	21 60.0	5 14.3	0 0.0	7 20.0	2 5.7	1 2.9
		女性	63 100.0	**45** **71.4**	**11** **17.5**	1 1.6	10 15.9	1 1.6	2 3.2
	60～64歳	男性	56 100.0	35 62.5	5 8.9	1 1.8	**14** **25.0**	3 5.4	1 1.8
		女性	65 100.0	46 70.8	8 12.3	1 1.5	12 18.5	3 4.6	0 0.0
	65～69歳	男性	46 100.0	**34** **73.9**	1 2.2	0 0.0	8 17.4	4 8.7	0 0.0
		女性	75 100.0	50 66.7	10 13.3	0 0.0	12 16.0	1 1.3	6 8.0
	70～74歳	男性	61 100.0	38 62.3	4 6.6	0 0.0	**16** **26.2**	2 3.3	3 4.9
		女性	87 100.0	43 49.4	5 5.7	1 1.1	**25** **28.7**	7 8.0	9 10.3
	75～79歳	男性	29 100.0	19 65.5	1 3.4	1 3.4	5 17.2	1 3.4	4 13.8
		女性	53 100.0	33 62.3	1 1.9	1 1.9	10 18.9	1 1.9	8 15.1
	80歳以上	男性	36 100.0	24 66.7	3 8.3	2 5.6	4 11.1	1 2.8	5 13.9
		女性	62 100.0	32 51.6	0 0.0	0 0.0	**16** **25.8**	3 4.8	11 17.7

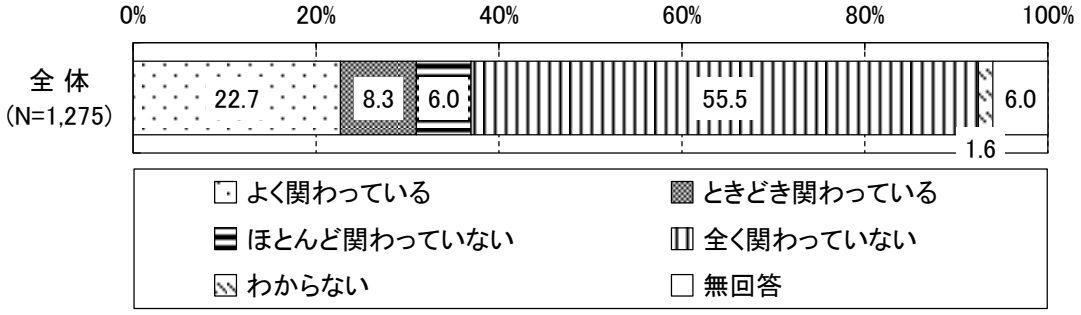
４「児童虐待防止」について

（１） 現在の子育ての関与状況

問 7. あなたは、現在 18 歳未満の子どもの子育てに関わっていますか。（○はひとつ）

現在子育てに「全く関わっていない」人は 6 割弱

●現在の子育ての関与状況について、「全く関わっていない」が 55.5%で最も高い。



【属性別特徴】

●「全く関わっていない」の割合を性別・年代別でみると、男性・55～74 歳、女性・50 歳～74 歳、女性・80 歳以上が、全体の割合に比べて高い。

●「よく関わっている」の割合を性別・年代別でみると、男性・35～44 歳、女性・30～54 歳が、全体の割合に比べて高い。

●「全く関わっていない」の割合をブロック別でみると、南東部、中央部が、全体の割合に比べて高い。

●「よく関わっている」の割合をブロック別でみると、中央東部が全体の割合に比べて高い。

4「児童虐待防止」について

◆表　性別・年代別◆

			サンプル数	よく関わっている	ときどき関わっている	ほとんど関わっていない	全く関わっていない	わからない	無回答
全　体			1,275 100.0	289 22.7	106 8.3	76 6.0	707 55.5	20 1.6	77 6.0
性別	男性		491 100.0	85 17.3	49 10.0	35 7.1	284 57.8	11 2.2	27 5.5
	女性		766 100.0	201 26.2	56 7.3	40 5.2	414 54.0	8 1.0	47 6.1
性別・年代別	15～19歳	男性	21 100.0	2 9.5	2 9.5	1 4.8	12 57.1	**4** **19.0**	0 0.0
		女性	27 100.0	3 11.1	0 0.0	**3** **11.1**	**21** **77.8**	0 0.0	0 0.0
	20～24歳	男性	18 100.0	0 0.0	1 5.6	1 5.6	**15** **83.3**	1 5.6	0 0.0
		女性	24 100.0	4 16.7	1 4.2	2 8.3	**17** **70.8**	0 0.0	0 0.0
	25～29歳	男性	17 100.0	**8** **47.1**	1 5.9	1 5.9	7 41.2	0 0.0	0 0.0
		女性	28 100.0	**13** **46.4**	0 0.0	0 0.0	13 46.4	1 3.6	1 3.6
	30～34歳	男性	19 100.0	**7** **36.8**	0 0.0	0 0.0	**12** **63.2**	0 0.0	0 0.0
		女性	38 100.0	**18** **47.4**	2 5.3	2 5.3	15 39.5	1 2.6	0 0.0
	35～39歳	男性	33 100.0	**16** **48.5**	**7** **21.2**	0 0.0	8 24.2	2 6.1	0 0.0
		女性	59 100.0	**40** **67.8**	1 1.7	0 0.0	17 28.8	1 1.7	0 0.0
	40～44歳	男性	32 100.0	**17** **53.1**	3 9.4	1 3.1	11 34.4	0 0.0	0 0.0
		女性	71 100.0	**54** **76.1**	3 4.2	0 0.0	13 18.3	0 0.0	1 1.4
	45～49歳	男性	43 100.0	11 25.6	**6** **14.0**	4 9.3	22 51.2	0 0.0	0 0.0
		女性	61 100.0	**36** **59.0**	0 0.0	3 4.9	22 36.1	0 0.0	0 0.0
	50～54歳	男性	40 100.0	9 22.5	5 12.5	2 5.0	22 55.0	1 2.5	1 2.5
		女性	50 100.0	**14** **28.0**	2 4.0	0 0.0	**34** **68.0**	0 0.0	0 0.0
	55～59歳	男性	35 100.0	3 8.6	1 2.9	1 2.9	**28** **80.0**	1 2.9	1 2.9
		女性	63 100.0	5 7.9	8 12.7	3 4.8	**45** **71.4**	0 0.0	2 3.2
	60～64歳	男性	56 100.0	2 3.6	5 8.9	6 10.7	**39** **69.6**	1 1.8	3 5.4
		女性	65 100.0	5 7.7	**12** **18.5**	6 9.2	**40** **61.5**	1 1.5	1 1.5
	65～69歳	男性	46 100.0	1 2.2	5 10.9	3 6.5	**33** **71.7**	0 0.0	4 8.7
		女性	75 100.0	3 4.0	**12** **16.0**	6 8.0	**47** **62.7**	0 0.0	7 9.3
	70～74歳	男性	61 100.0	4 6.6	8 13.1	5 8.2	**37** **60.7**	0 0.0	7 11.5
		女性	87 100.0	5 5.7	10 11.5	6 6.9	**56** **64.4**	3 3.4	7 8.0
	75～79歳	男性	29 100.0	2 6.9	3 10.3	**4** **13.8**	17 58.6	0 0.0	3 10.3
		女性	53 100.0	1 1.9	2 3.8	**6** **11.3**	32 60.4	0 0.0	12 22.6
	80歳以上	男性	36 100.0	2 5.6	2 5.6	**5** **13.9**	18 50.0	1 2.8	8 22.2
		女性	62 100.0	0 0.0	2 3.2	3 4.8	**41** **66.1**	1 1.6	15 24.2

◆表　ブロック別◆

		サンプル数	よく関わっている	ときどき関わっている	ほとんど関わっていない	全く関わっていない	わからない	無回答
全　体		1,275 100.0	289 22.7	106 8.3	76 6.0	707 55.5	20 1.6	77 6.0
ブロック別	東部Ａ	91 100.0	17 18.7	9 9.9	**11** **12.1**	45 49.5	0 0.0	9 9.9
	東部Ｂ	80 100.0	14 17.5	10 12.5	5 6.3	40 50.0	1 1.3	10 12.5
	北部Ａ	113 100.0	31 27.4	9 8.0	6 5.3	62 54.9	3 2.7	2 1.8
	北部Ｂ	72 100.0	15 20.8	7 9.7	2 2.8	41 56.9	1 1.4	6 8.3
	中央東部	140 100.0	**45** **32.1**	7 5.0	5 3.6	76 54.3	0 0.0	7 5.0
	南東部	108 100.0	20 18.5	9 8.3	6 5.6	**66** **61.1**	1 0.9	6 5.6
	中央部	177 100.0	38 21.5	15 8.5	6 3.4	**111** **62.7**	1 0.6	6 3.4
	中央南部	205 100.0	50 24.4	25 12.2	12 5.9	103 50.2	7 3.4	8 3.9
	南西部	125 100.0	26 20.8	6 4.8	7 5.6	74 59.2	3 2.4	9 7.2
	西部Ａ	55 100.0	10 18.2	2 3.6	**7** **12.7**	31 56.4	1 1.8	4 7.3
	西部Ｂ	74 100.0	17 23.0	4 5.4	6 8.1	41 55.4	0 0.0	6 8.1

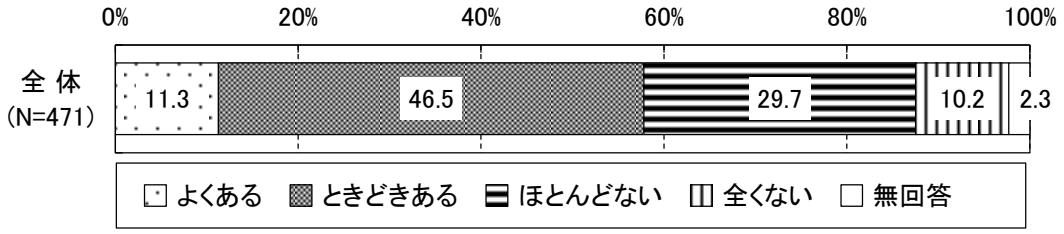
（２） 子育ての困難さを感じることの有無

【問７で「1」～「3」のいずれかに回答された方にお聞きします。】

問 7-1. あなたは、子育てに困難を感じることがありますか。（○はひとつ）

子育てに困難を感じることが「ときどきある」人は５割弱

●子育ての困難さを感じることの有無について、「ときどきある」が 46.5%で最も高い。



【属性別特徴】

●「ときどきある」の割合を性別・年代別でみると、男性・35～44 歳、男性・55～59 歳、男性・75～79 歳、女性・25～29 歳、女性・35～49 歳、女性・60～64 歳が、全体の割合に比べて高い。

4「児童虐待防止」について

◆表　性別・年代別◆

			サンプル数	よくある	ときどきある	ほとんどない	全くない	無回答
全　体			471 100.0	53 11.3	219 46.5	140 29.7	48 10.2	11 2.3
性別	男性		169 100.0	20 11.8	73 43.2	54 32.0	20 11.8	2 1.2
性別	女性		297 100.0	33 11.1	145 48.8	82 27.6	28 9.4	9 3.0
性別・年代別	15～19歳	男性	5 100.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0
		女性	6 100.0	0 0.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	0 0.0
	20～24歳	男性	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	7 100.0	0 0.0	3 42.9	3 42.9	1 14.3	0 0.0
	25～29歳	男性	10 100.0	2 20.0	4 40.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0
		女性	13 100.0	2 15.4	8 61.5	1 7.7	2 15.4	0 0.0
	30～34歳	男性	7 100.0	2 28.6	2 28.6	3 42.9	0 0.0	0 0.0
		女性	22 100.0	4 18.2	10 45.5	6 27.3	2 9.1	0 0.0
	35～39歳	男性	23 100.0	2 8.7	15 65.2	5 21.7	1 4.3	0 0.0
		女性	41 100.0	5 12.2	28 68.3	6 14.6	2 4.9	0 0.0
	40～44歳	男性	21 100.0	4 19.0	12 57.1	4 19.0	1 4.8	0 0.0
		女性	57 100.0	7 12.3	31 54.4	16 28.1	3 5.3	0 0.0
	45～49歳	男性	21 100.0	2 9.5	7 33.3	12 57.1	0 0.0	0 0.0
		女性	39 100.0	4 10.3	22 56.4	11 28.2	2 5.1	0 0.0
	50～54歳	男性	16 100.0	1 6.3	8 50.0	4 25.0	3 18.8	0 0.0
		女性	16 100.0	4 25.0	5 31.3	4 25.0	3 18.8	0 0.0
	55～59歳	男性	5 100.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0
		女性	16 100.0	2 12.5	7 43.8	4 25.0	2 12.5	1 6.3
	60～64歳	男性	13 100.0	0 0.0	3 23.1	5 38.5	4 30.8	1 7.7
		女性	23 100.0	1 4.3	13 56.5	7 30.4	1 4.3	1 4.3
	65～69歳	男性	9 100.0	0 0.0	4 44.4	4 44.4	1 11.1	0 0.0
		女性	21 100.0	2 9.5	5 23.8	9 42.9	4 19.0	1 4.8
	70～74歳	男性	17 100.0	2 11.8	6 35.3	8 47.1	1 5.9	0 0.0
		女性	21 100.0	2 9.5	8 38.1	5 23.8	3 14.3	3 14.3
	75～79歳	男性	9 100.0	1 11.1	5 55.6	2 22.2	1 11.1	0 0.0
		女性	9 100.0	0 0.0	1 11.1	5 55.6	0 0.0	3 33.3
	80歳以上	男性	9 100.0	1 11.1	1 11.1	3 33.3	4 44.4	0 0.0
		女性	5 100.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0

4「児童虐待防止」について

【設問間別特徴】

●子育ての困難さが「ときどきある」の割合を同居している末子の年齢別でみると、0～11 か月、2 歳、4 歳が、全体の割合に比べて高い。

●子育ての困難さが「よくある」の割合を同居している末子の年齢別でみると、7 か月～3 歳が、全体の割合に比べて高い。

◆表　同居している末子の年齢別◆

		サンプル数	よくある	ときどきある	ほとんどない	全くない	無回答
全　体		471 100.0	53 11.3	219 46.5	140 29.7	48 10.2	11 2.3
同居している末子の年齢別	0～6か月	13 100.0	0 0.0	**8** **61.5**	4 30.8	1 7.7	0 0.0
	7～11か月	13 100.0	**3** **23.1**	**7** **53.8**	2 15.4	1 7.7	0 0.0
	1歳	23 100.0	**5** **21.7**	8 34.8	**9** **39.1**	1 4.3	0 0.0
	2歳	29 100.0	**6** **20.7**	**15** **51.7**	6 20.7	2 6.9	0 0.0
	3歳	18 100.0	**3** **16.7**	8 44.4	6 33.3	1 5.6	0 0.0
	4歳	26 100.0	3 11.5	**15** **57.7**	8 30.8	0 0.0	0 0.0
	5歳	14 100.0	1 7.1	5 35.7	**5** **35.7**	**3** **21.4**	0 0.0
	6歳	13 100.0	0 0.0	6 46.2	**5** **38.5**	**2** **15.4**	0 0.0
	小学1年生未満（未就学児）の子どもはいない	269 100.0	30 11.2	130 48.3	76 28.3	28 10.4	5 1.9

◆表　子育てに関する相談窓口の認知状況別◆

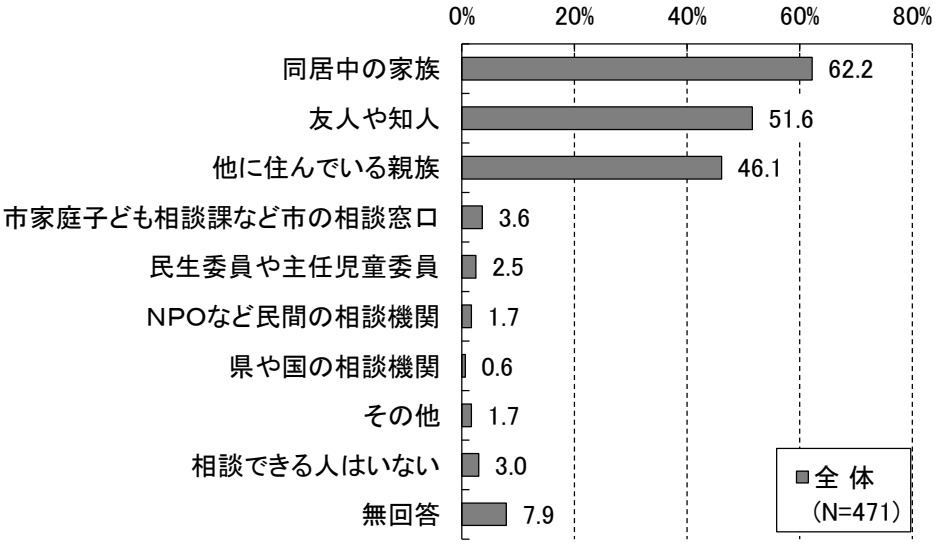
		サンプル数	よくある	ときどきある	ほとんどない	全くない	無回答
全　体		471 100.0	53 11.3	219 46.5	140 29.7	48 10.2	11 2.3
子育てに関する相談窓口の認知状況別	知っている	349 100.0	41 11.7	165 47.3	101 28.9	33 9.5	9 2.6
	知らなかった	113 100.0	10 8.8	51 45.1	35 31.0	15 13.3	2 1.8

（３） 子育てに関する相談相手

問 7-2. あなたは、子育てに関して、相談できる人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

子育てに関して「同居中の家族」に相談している人は６割強

●子育てに関しての相談できる相手について、「同居中の家族」が 62.2％で最も高く、「友人や知人」が 51.6％と続く。



【属性別特徴】

●「友人や知人」、「他に住んでいる親族」の割合を性別でみると、女性が高い。

4「児童虐待防止」について

◆表　性別・年代別◆

			サンプル数	同居中の家族	友人や知人	他に住んでいる親族	市家庭子ども相談課など市の相談窓口	民生委員や主任児童委員	NPOなど民間の相談機関	県や国の相談機関	その他	相談できる人はいない	無回答
全　体			471 100.0	293 62.2	243 51.6	217 46.1	17 3.6	12 2.5	8 1.7	3 0.6	8 1.7	14 3.0	37 7.9
性別	男性		169 100.0	111 65.7	67 39.6	60 35.5	5 3.0	4 2.4	0 0.0	1 0.6	2 1.2	5 3.0	12 7.1
性別	女性		297 100.0	181 60.9	173 58.2	154 51.9	11 3.7	8 2.7	7 2.4	2 0.7	6 2.0	9 3.0	24 8.1
性別・年代別	15～19歳	男性	5 100.0	3 60.0	4 80.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	15～19歳	女性	6 100.0	5 83.3	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7
性別・年代別	20～24歳	男性	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	20～24歳	女性	7 100.0	4 57.1	4 57.1	5 71.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0
性別・年代別	25～29歳	男性	10 100.0	7 70.0	6 60.0	5 50.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	25～29歳	女性	13 100.0	12 92.3	11 84.6	11 84.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	30～34歳	男性	7 100.0	6 85.7	3 42.9	4 57.1	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	30～34歳	女性	22 100.0	13 59.1	12 54.5	13 59.1	1 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.5	3 13.6	1 4.5
性別・年代別	35～39歳	男性	23 100.0	18 78.3	15 65.2	11 47.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0
性別・年代別	35～39歳	女性	41 100.0	38 92.7	29 70.7	30 73.2	1 2.4	1 2.4	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	40～44歳	男性	21 100.0	19 90.5	10 47.6	11 52.4	1 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	40～44歳	女性	57 100.0	37 64.9	43 75.4	35 61.4	1 1.8	0 0.0	2 3.5	1 1.8	2 3.5	2 3.5	1 1.8
性別・年代別	45～49歳	男性	21 100.0	16 76.2	10 47.6	8 38.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	45～49歳	女性	39 100.0	29 74.4	26 66.7	22 56.4	0 0.0	0 0.0	2 5.1	0 0.0	0 0.0	1 2.6	0 0.0
性別・年代別	50～54歳	男性	16 100.0	12 75.0	7 43.8	7 43.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	50～54歳	女性	16 100.0	10 62.5	13 81.3	10 62.5	2 12.5	2 12.5	1 6.3	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	55～59歳	男性	5 100.0	4 80.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別・年代別	55～59歳	女性	16 100.0	7 43.8	9 56.3	5 31.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	1 6.3
性別・年代別	60～64歳	男性	13 100.0	7 53.8	2 15.4	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	3 23.1
性別・年代別	60～64歳	女性	23 100.0	8 34.8	9 39.1	6 26.1	0 0.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 17.4
性別・年代別	65～69歳	男性	9 100.0	5 55.6	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	2 22.2
性別・年代別	65～69歳	女性	21 100.0	7 33.3	8 38.1	8 38.1	2 9.5	2 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 23.8
性別・年代別	70～74歳	男性	17 100.0	6 35.3	3 17.6	5 29.4	1 5.9	1 5.9	0 0.0	0 0.0	1 5.9	1 5.9	2 11.8
性別・年代別	70～74歳	女性	21 100.0	7 33.3	4 19.0	4 19.0	2 9.5	1 4.8	1 4.8	1 4.8	0 0.0	2 9.5	4 19.0
性別・年代別	75～79歳	男性	9 100.0	4 44.4	0 0.0	2 22.2	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1
性別・年代別	75～79歳	女性	9 100.0	3 33.3	2 22.2	2 22.2	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 44.4
性別・年代別	80歳以上	男性	9 100.0	2 22.2	3 33.3	0 0.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 44.4
性別・年代別	80歳以上	女性	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0

4「児童虐待防止」について

【設問間別特徴】

●「相談できる人はいない」の割合を同居している末子の年齢別でみると、1 歳、3 歳が、全体の割合に比べて高い。

●「友人や知人」の割合を子育ての困難さを感じるかの有無別でみると、子育ての困難を感じたことがときどきある人が、全体の割合に比べて高い。

●「相談できる人はいない」の割合を子育ての困難さを感じるかの有無別でみると、子育ての困難を感じたことがよくある人が、全体の割合に比べて高い。

●「同居中の家族」の割合を児童虐待をしているのではと思った経験別でみると、児童虐待をしていると思った経験がほとんどなかった人が、全体の割合に比べて高い。

●「友人や知人」の割合を児童虐待をしているのではと思った経験別でみると、児童虐待をしていると思った経験がよくあった、ときどきあった、わからない人が、全体の割合に比べて高い。

●「相談できる人はいない」の割合を児童虐待をしているのではと思った経験別でみると、児童虐待をしていると思った経験がよくあった、わからない人が、全体の割合に比べて高い。

◆表　同居している末子の年齢別◆

		サンプル数	同居中の家族	友人や知人	他に住んでいる親族	市家庭子ども相談課など市の相談窓口	民生委員や主任児童委員	NPOなど民間の相談機関	県や国の相談機関	その他	相談できる人はいない	無回答
全　体		471 100.0	293 62.2	243 51.6	217 46.1	17 3.6	12 2.5	8 1.7	3 0.6	8 1.7	14 3.0	37 7.9
同居している末子の年齢別	0～6か月	13 100.0	**13** **100.0**	**9** **69.2**	**11** **84.6**	0 0.0	**1** **7.7**	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	7～11か月	13 100.0	**11** **84.6**	6 46.2	**9** **69.2**	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0
	1歳	23 100.0	**16** **69.6**	**14** **60.9**	**14** **60.9**	1 4.3	1 4.3	1 4.3	0 0.0	0 0.0	**2** **8.7**	0 0.0
	2歳	29 100.0	**26** **89.7**	**19** **65.5**	**19** **65.5**	2 6.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	1 3.4	0 0.0
	3歳	18 100.0	**14** **77.8**	9 50.0	7 38.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	**3** **16.7**	0 0.0
	4歳	26 100.0	**21** **80.8**	**18** **69.2**	**17** **65.4**	1 3.8	0 0.0	1 3.8	0 0.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0
	5歳	14 100.0	**12** **85.7**	**8** **57.1**	7 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	**2** **14.3**	0 0.0	0 0.0
	6歳	13 100.0	**11** **84.6**	**9** **69.2**	**7** **53.8**	0 0.0	**1** **7.7**	**1** **7.7**	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	小学1年生未満（未就学児）の子どもはいない	269 100.0	160 59.5	137 50.9	118 43.9	12 4.5	6 2.2	4 1.5	3 1.1	3 1.1	6 2.2	13 4.8

◆表　子育ての困難さを感じるかの有無別◆

		サンプル数	同居中の家族	友人や知人	他に住んでいる親族	市家庭子ども相談課など市の相談窓口	民生委員や主任児童委員	NPOなど民間の相談機関	県や国の相談機関	その他	相談できる人はいない	無回答
全　体		471 100.0	293 62.2	243 51.6	217 46.1	17 3.6	12 2.5	8 1.7	3 0.6	8 1.7	14 3.0	37 7.9
子育ての困難さを感じるかの有無別	よくある	53 100.0	28 52.8	28 52.8	24 45.3	**7** **13.2**	**4** **7.5**	2 3.8	0 0.0	3 5.7	**5** **9.4**	2 3.8
	ときどきある	219 100.0	143 65.3	**130** **59.4**	**113** **51.6**	4 1.8	5 2.3	5 2.3	1 0.5	4 1.8	4 1.8	4 1.8
	ほとんどない	140 100.0	94 67.1	70 50.0	62 44.3	5 3.6	3 2.1	1 0.7	1 0.7	0 0.0	4 2.9	15 10.7
	全くない	48 100.0	27 56.3	13 27.1	18 37.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	1 2.1	1 2.1	1 2.1	7 14.6

4「児童虐待防止」について

◆表　児童虐待をしているのではと思った経験別◆

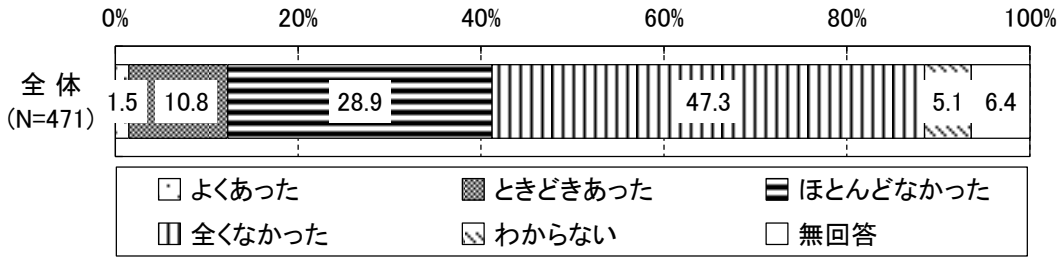
		サンプル数	同居中の家族	友人や知人	他に住んでいる親族	市家庭子ども相談課など市の相談窓口	民生委員や主任児童委員	NPOなど民間の相談機関	県や国の相談機関	その他	相談できる人はいない	無回答
全　体		471 100.0	293 62.2	243 51.6	217 46.1	17 3.6	12 2.5	8 1.7	3 0.6	8 1.7	14 3.0	37 7.9
児童虐待をしているのではと思った経験別	よくあった	7 100.0	4 57.1	**5** **71.4**	**6** **85.7**	**1** **14.3**	0 0.0	**1** **14.3**	0 0.0	0 0.0	**1** **14.3**	0 0.0
	ときどきあった	51 100.0	32 62.7	**31** **60.8**	**29** **56.9**	3 5.9	3 5.9	2 3.9	0 0.0	**4** **7.8**	0 0.0	1 2.0
	ほとんどなかった	136 100.0	**94** **69.1**	75 55.1	65 47.8	5 3.7	3 2.2	1 0.7	1 0.7	1 0.7	4 2.9	3 2.2
	全くなかった	223 100.0	146 65.5	116 52.0	107 48.0	7 3.1	5 2.2	3 1.3	1 0.4	2 0.9	6 2.7	6 2.7
	わからない	24 100.0	15 62.5	**14** **58.3**	8 33.3	1 4.2	0 0.0	1 4.2	1 4.2	0 0.0	**3** **12.5**	1 4.2
	無回答	30 100.0	2 6.7	2 6.7	2 6.7	0 0.0	1 3.3	0 0.0	0 0.0	1 3.3	0 0.0	26 86.7

（４） 児童虐待をしているのではないかと思った経験

問 7-3. あなたは、これまで自分が問 6 の表に当てはまるような児童虐待をしているのではないかと思うことがありましたか。（○はひとつ）

児童虐待をしているのではと思う事が「全くなかった」人は 5 割弱

●児童虐待をしているのではないかと思った経験について、「全くなかった」が 47.3％で最も高い。



【属性別特徴】

●「全くなかった」の割合を性別でみると、男性が高い。

4「児童虐待防止」について

◆表　性別・年代別◆

			サンプル数	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	わからない	無回答
全　体			471 100.0	7 1.5	51 10.8	136 28.9	223 47.3	24 5.1	30 6.4
性別	男性		169 100.0	2 1.2	13 7.7	46 27.2	95 56.2	4 2.4	9 5.3
	女性		297 100.0	5 1.7	38 12.8	89 30.0	125 42.1	20 6.7	20 6.7
性別・年代別	15～19歳	男性	5 100.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0
		女性	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 83.3	1 16.7	0 0.0
	20～24歳	男性	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
		女性	7 100.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	3 42.9	3 42.9	0 0.0
	25～29歳	男性	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	8 80.0	1 10.0	0 0.0
		女性	13 100.0	0 0.0	1 7.7	4 30.8	7 53.8	1 7.7	0 0.0
	30～34歳	男性	7 100.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	6 85.7	0 0.0	0 0.0
		女性	22 100.0	1 4.5	2 9.1	6 27.3	11 50.0	1 4.5	1 4.5
	35～39歳	男性	23 100.0	1 4.3	1 4.3	7 30.4	14 60.9	0 0.0	0 0.0
		女性	41 100.0	1 2.4	10 24.4	18 43.9	10 24.4	1 2.4	1 2.4
	40～44歳	男性	21 100.0	0 0.0	4 19.0	5 23.8	11 52.4	1 4.8	0 0.0
		女性	57 100.0	1 1.8	11 19.3	17 29.8	22 38.6	6 10.5	0 0.0
	45～49歳	男性	21 100.0	0 0.0	0 0.0	8 38.1	12 57.1	1 4.8	0 0.0
		女性	39 100.0	0 0.0	5 12.8	12 30.8	20 51.3	2 5.1	0 0.0
	50～54歳	男性	16 100.0	0 0.0	2 12.5	4 25.0	10 62.5	0 0.0	0 0.0
		女性	16 100.0	1 6.3	3 18.8	4 25.0	8 50.0	0 0.0	0 0.0
	55～59歳	男性	5 100.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
		女性	16 100.0	0 0.0	3 18.8	6 37.5	5 31.3	0 0.0	2 12.5
	60～64歳	男性	13 100.0	0 0.0	0 0.0	6 46.2	3 23.1	1 7.7	3 23.1
		女性	23 100.0	0 0.0	2 8.7	5 21.7	12 52.2	1 4.3	3 13.0
	65～69歳	男性	9 100.0	0 0.0	2 22.2	3 33.3	3 33.3	0 0.0	1 11.1
		女性	21 100.0	0 0.0	0 0.0	6 28.6	10 47.6	1 4.8	4 19.0
	70～74歳	男性	17 100.0	0 0.0	1 5.9	3 17.6	10 58.8	0 0.0	3 17.6
		女性	21 100.0	1 4.8	0 0.0	7 33.3	8 38.1	1 4.8	4 19.0
	75～79歳	男性	9 100.0	0 0.0	0 0.0	4 44.4	5 55.6	0 0.0	0 0.0
		女性	9 100.0	0 0.0	1 11.1	1 11.1	3 33.3	1 11.1	3 33.3
	80歳以上	男性	9 100.0	0 0.0	0 0.0	3 33.3	4 44.4	0 0.0	2 22.2
		女性	5 100.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0

4「児童虐待防止」について

【設問間別特徴】

●「全くなかった」の割合を同居している末子の年齢別でみると、0～1 歳、5 歳が、全体の割合に比べて高い。

●「ほとんどなかった」の割合を同居している末子の年齢別でみると、4 歳、6 歳が、全体の割合に比べて高い。

●「全くなかった」の割合を子育ての困難さを感じるかの有無別でみると、子育ての困難を感じたことがほとんどない、全くない人が、全体の割合に比べて高い。

●「ほとんどなかった」の割合を子育ての困難さを感じるかの有無別でみると、子育ての困難を感じたことがときどきあった人が、全体の割合に比べて高い。

●児童虐待をしているのではないかと思った経験の割合を、子育てに関する相談窓口の認知状況別にみても、大きく変わらない。

◆表　同居している末子の年齢別◆

		サンプル数	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	わからない	無回答
全　体		471 100.0	7 1.5	51 10.8	136 28.9	223 47.3	24 5.1	30 6.4
同居している末子の年齢別	0～6か月	13 100.0	0 0.0	1 7.7	2 15.4	**9** **69.2**	1 7.7	0 0.0
	7～11か月	13 100.0	0 0.0	2 15.4	2 15.4	**8** **61.5**	1 7.7	0 0.0
	1歳	23 100.0	0 0.0	2 8.7	4 17.4	**13** **56.5**	**4** **17.4**	0 0.0
	2歳	29 100.0	1 3.4	**6** **20.7**	9 31.0	13 44.8	0 0.0	0 0.0
	3歳	18 100.0	0 0.0	**6** **33.3**	4 22.2	4 22.2	**3** **16.7**	1 5.6
	4歳	26 100.0	1 3.8	1 3.8	**11** **42.3**	11 42.3	2 7.7	0 0.0
	5歳	14 100.0	0 0.0	2 14.3	4 28.6	**8** **57.1**	0 0.0	0 0.0
	6歳	13 100.0	0 0.0	2 15.4	**5** **38.5**	5 38.5	1 7.7	0 0.0
	小学1年生未満（未就学児）の子どもはいない	269 100.0	4 1.5	27 10.0	82 30.5	133 49.4	11 4.1	12 4.5

◆表　子育ての困難さを感じるかの有無別◆

		サンプル数	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	わからない	無回答
全　体		471 100.0	7 1.5	51 10.8	136 28.9	223 47.3	24 5.1	30 6.4
子育ての困難さを感じるかの有無別	よくある	53 100.0	3 5.7	**16** **30.2**	13 24.5	16 30.2	3 5.7	2 3.8
	ときどきある	219 100.0	4 1.8	29 13.2	**78** **35.6**	90 41.1	14 6.4	4 1.8
	ほとんどない	140 100.0	0 0.0	5 3.6	34 24.3	**84** **60.0**	6 4.3	11 7.9
	全くない	48 100.0	0 0.0	0 0.0	11 22.9	**31** **64.6**	1 2.1	5 10.4

4「児童虐待防止」について

◆表　子育てに関する相談窓口の認知状況別◆

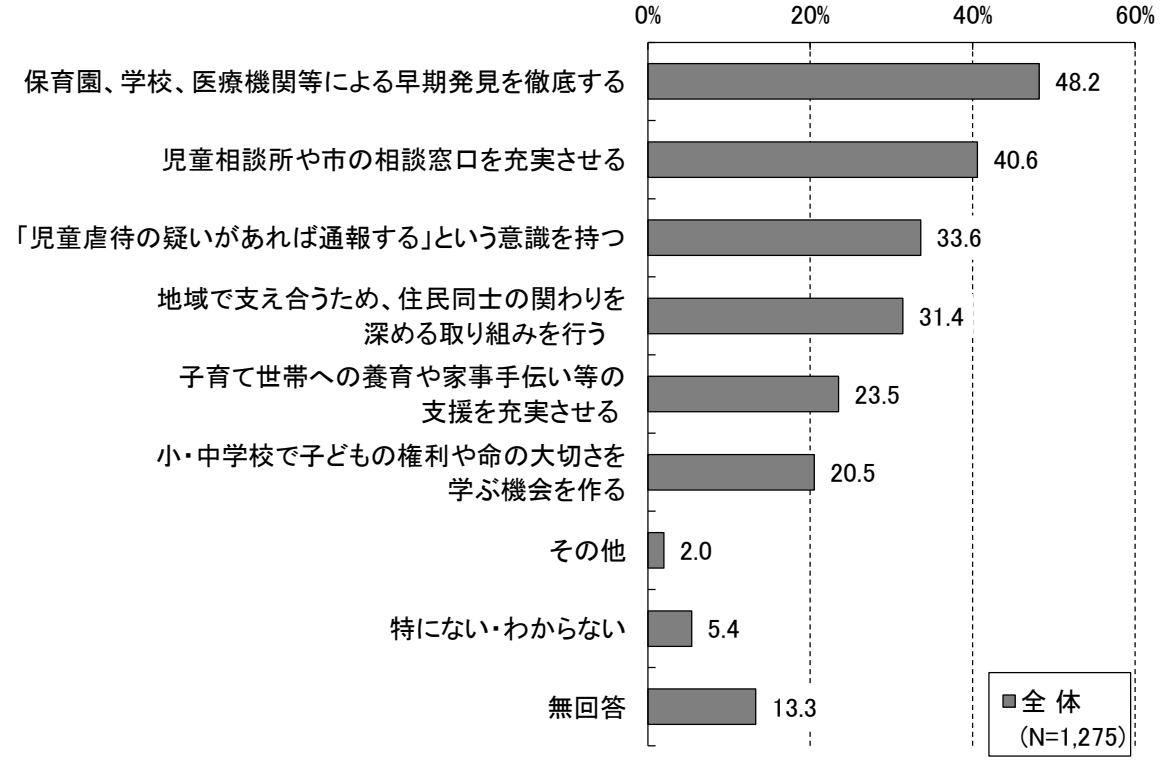
		サンプル数	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	わからない	無回答
全　体		471	7	51	136	223	24	30
		100.0	1.5	10.8	28.9	47.3	5.1	6.4
子育てに関する相談窓口の認知状況別	知っている	349	5	40	106	163	15	20
		100.0	1.4	11.5	30.4	46.7	4.3	5.7
	知らなかった	113	2	10	29	56	9	7
		100.0	1.8	8.8	25.7	49.6	8.0	6.2

（５） 児童虐待を防ぐために有効だと思うこと

問 8. 児童虐待を防ぐためには、どれが有効であると思いますか。（あてはまるもの 3 つまで○）

「保育園、学校、医療機関等による早期発見を徹底する」ことが児童虐待を防ぐために有効だと思う人は 5 割弱

●児童虐待を防ぐために有効だと思うことについて、「保育園、学校、医療機関等による早期発見を徹底する」が 48.2%で最も高く、「児童相談所や市の相談窓口を充実させる」が 40.6%と続く。



【属性別特徴】

●「保育園、学校、医療機関等による早期発見を徹底する」の割合を性別・年代別でみると、男性・40～54 歳、女性・30～34 歳、女性・40～54 歳、女性・60～64 歳が、全体の割合に比べて高い。

●「児童相談所や市の相談窓口を充実させる」の割合を性別・年代別でみると、男性・50～54 歳、男性・60～69 歳、女性・30～34 歳、女性・45～64 歳が、全体の割合に比べて高い。

●「児童相談所や市の相談窓口を充実させる」の割合をブロック別でみると、南東部、西部 B が、全体の割合に比べて高い。

4「児童虐待防止」について

◆表　性別・年代別◆

			サンプル数	保育園、学校、医療機関等による早期発見を徹底する	児童相談所や市の相談窓口を充実させる	「児童虐待の疑いがあれば通報する」という意識を持つ	地域で支え合うため、住民同士の関わりを深める取り組みを行う	子育て世帯への養育や家事手伝い等の支援を充実させる	小・中学校で子どもの権利や命の大切さを学ぶ機会を作る	その他	特にない・わからない	無回答
全　体			1,275	614	518	428	400	299	261	25	69	169
			100.0	48.2	40.6	33.6	31.4	23.5	20.5	2.0	5.4	13.3
性別	男性		491	213	198	188	169	103	112	11	27	56
			100.0	43.4	40.3	38.3	34.4	21.0	22.8	2.2	5.5	11.4
	女性		766	395	315	235	226	195	144	14	42	107
			100.0	51.6	41.1	30.7	29.5	25.5	18.8	1.8	5.5	14.0
性別・年代別	15～19歳	男性	21	9	6	7	3	4	**10**	0	2	0
			100.0	42.9	28.6	33.3	14.3	19.0	**47.6**	0.0	9.5	0.0
		女性	27	**17**	12	10	6	**8**	**8**	0	0	2
			100.0	**63.0**	44.4	37.0	22.2	**29.6**	**29.6**	0.0	0.0	7.4
	20～24歳	男性	18	**11**	8	6	**8**	**7**	**5**	0	1	0
			100.0	**61.1**	44.4	33.3	**44.4**	**38.9**	**27.8**	0.0	5.6	0.0
		女性	24	**16**	**12**	7	8	**8**	4	1	1	0
			100.0	**66.7**	**50.0**	29.2	33.3	**33.3**	16.7	4.2	4.2	0.0
	25～29歳	男性	17	7	4	4	**12**	**6**	4	1	0	0
			100.0	41.2	23.5	23.5	**70.6**	**35.3**	23.5	5.9	0.0	0.0
		女性	28	**17**	10	10	**11**	**14**	7	1	0	0
			100.0	**60.7**	35.7	35.7	**39.3**	**50.0**	25.0	3.6	0.0	0.0
	30～34歳	男性	19	6	8	4	4	5	2	1	**3**	2
			100.0	31.6	42.1	21.1	21.1	26.3	10.5	5.3	**15.8**	10.5
		女性	38	**21**	**20**	13	11	**13**	3	1	2	2
			100.0	**55.3**	**52.6**	34.2	28.9	**34.2**	7.9	2.6	5.3	5.3
	35～39歳	男性	33	16	11	**14**	8	**13**	4	1	3	3
			100.0	48.5	33.3	**42.4**	24.2	**39.4**	12.1	3.0	9.1	9.1
		女性	59	27	19	16	19	**32**	13	2	4	3
			100.0	45.8	32.2	27.1	32.2	**54.2**	22.0	3.4	6.8	5.1
	40～44歳	男性	32	**20**	14	**13**	8	4	**9**	1	0	3
			100.0	**62.5**	43.8	**40.6**	25.0	12.5	**28.1**	3.1	0.0	9.4
		女性	71	**48**	23	16	23	**30**	**20**	1	6	2
			100.0	**67.6**	32.4	22.5	32.4	**42.3**	**28.2**	1.4	8.5	2.8
	45～49歳	男性	43	**23**	16	15	14	9	**12**	2	4	2
			100.0	**53.5**	37.2	34.9	32.6	20.9	**27.9**	4.7	9.3	4.7
		女性	61	**35**	**28**	18	**24**	17	11	3	4	2
			100.0	**57.4**	**45.9**	29.5	**39.3**	27.9	18.0	4.9	6.6	3.3
	50～54歳	男性	40	**23**	**25**	**20**	13	6	4	1	1	2
			100.0	**57.5**	**62.5**	**50.0**	32.5	15.0	10.0	2.5	2.5	5.0
		女性	50	**37**	**29**	17	7	13	**14**	0	4	1
			100.0	**74.0**	**58.0**	34.0	14.0	26.0	**28.0**	0.0	8.0	2.0
	55～59歳	男性	35	18	15	**17**	11	7	8	1	3	2
			100.0	51.4	42.9	**48.6**	31.4	20.0	22.9	2.9	8.6	5.7
		女性	63	33	**36**	**25**	22	16	15	1	2	4
			100.0	52.4	**57.1**	**39.7**	34.9	25.4	23.8	1.6	3.2	6.3
	60～64歳	男性	56	20	**27**	**26**	**22**	**16**	8	1	4	4
			100.0	35.7	**48.2**	**46.4**	**39.3**	**28.6**	14.3	1.8	7.1	7.1
		女性	65	**41**	**33**	**28**	22	13	9	3	2	4
			100.0	**63.1**	**50.8**	**43.1**	33.8	20.0	13.8	4.6	3.1	6.2
	65～69歳	男性	46	15	**22**	14	**17**	8	**13**	2	3	6
			100.0	32.6	**47.8**	30.4	**37.0**	17.4	**28.3**	4.3	6.5	13.0
		女性	75	37	26	24	26	13	14	0	5	16
			100.0	49.3	34.7	32.0	34.7	17.3	18.7	0.0	6.7	21.3
	70～74歳	男性	61	21	20	20	22	8	14	0	1	15
			100.0	34.4	32.8	32.8	36.1	13.1	23.0	0.0	1.6	24.6
		女性	87	32	29	29	21	12	12	1	6	23
			100.0	36.8	33.3	33.3	24.1	13.8	13.8	1.1	6.9	26.4
	75～79歳	男性	29	12	9	**13**	**13**	4	**9**	0	1	3
			100.0	41.4	31.0	**44.8**	**44.8**	13.8	**31.0**	0.0	3.4	10.3
		女性	53	18	16	8	12	2	10	0	0	22
			100.0	34.0	30.2	15.1	22.6	3.8	18.9	0.0	0.0	41.5
	80歳以上	男性	36	11	10	13	13	5	8	0	1	13
			100.0	30.6	27.8	36.1	36.1	13.9	22.2	0.0	2.8	36.1
		女性	62	14	21	13	14	3	4	0	6	26
			100.0	22.6	33.9	21.0	22.6	4.8	6.5	0.0	9.7	41.9

4「児童虐待防止」について

◆表　ブロック別◆

		サンプル数	保育園、学校、医療機関等による早期発見を徹底する	児童相談所や市の相談窓口を充実させる	「児童虐待の疑いがあれば通報する」という意識を持つ	地域で支え合うため、住民同士の関わりを深める取り組みを行う	子育て世帯への養育や家事手伝い等の支援を充実させる	小・中学校で子どもの権利や命の大切さを学ぶ機会を作る	その他	特にない・わからない	無回答
全　体		1,275	614	518	428	400	299	261	25	69	169
		100.0	48.2	40.6	33.6	31.4	23.5	20.5	2.0	5.4	13.3
ブロック別	東部Ａ	91	40	35	32	28	19	13	1	3	17
		100.0	44.0	38.5	35.2	30.8	20.9	14.3	1.1	3.3	18.7
	東部Ｂ	80	39	26	25	29	15	**23**	1	5	13
		100.0	48.8	32.5	31.3	36.3	18.8	**28.8**	1.3	6.3	16.3
	北部Ａ	113	53	46	39	34	**36**	26	2	11	5
		100.0	46.9	40.7	34.5	30.1	**31.9**	23.0	1.8	9.7	4.4
	北部Ｂ	72	34	29	20	22	14	14	3	5	9
		100.0	47.2	40.3	27.8	30.6	19.4	19.4	4.2	6.9	12.5
	中央東部	140	64	60	42	46	31	34	4	6	19
		100.0	45.7	42.9	30.0	32.9	22.1	24.3	2.9	4.3	13.6
	南東部	108	50	**51**	37	**43**	22	**28**	3	4	13
		100.0	46.3	**47.2**	34.3	**39.8**	20.4	**25.9**	2.8	3.7	12.0
	中央部	177	90	75	68	47	44	32	3	8	24
		100.0	50.8	42.4	38.4	26.6	24.9	18.1	1.7	4.5	13.6
	中央南部	205	106	89	74	65	51	37	3	14	19
		100.0	51.7	43.4	36.1	31.7	24.9	18.0	1.5	6.8	9.3
	南西部	125	56	40	34	38	29	18	4	7	24
		100.0	44.8	32.0	27.2	30.4	23.2	14.4	3.2	5.6	19.2
	西部Ａ	55	28	19	**26**	12	14	9	0	4	7
		100.0	50.9	34.5	**47.3**	21.8	25.5	16.4	0.0	7.3	12.7
	西部Ｂ	74	36	**35**	21	25	18	18	1	1	12
		100.0	48.6	**47.3**	28.4	33.8	24.3	24.3	1.4	1.4	16.2

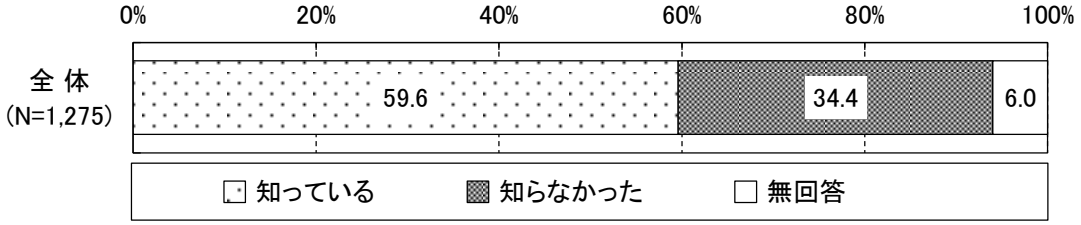
10 その他

（６） 子育てに関する相談窓口の認知状況

問 30-1. あなたは、次のような公的相談窓口を知っていますか。（どちらかに○）

子育てに関する相談窓口を「知っている」人は 6 割弱

●子育てに関する相談窓口の認知状況について、「知っている」が 59.6%、「知らなかった」が 34.4%である。



【属性別特徴】

●「知っている」の割合を性別でみると、女性が高い。

●「知っている」の割合をブロック別でみると、東部 B が全体の割合に比べて高い。

10 その他

◆表　性別・年代別◆

			サンプル数	知っている	知らなかった	無回答
全　体			1,275 100.0	760 59.6	438 34.4	77 6.0
性別	男性		491 100.0	256 52.1	**211** **43.0**	24 4.9
	女性		766 100.0	**497** **64.9**	219 28.6	50 6.5
性別・年代別	15～19歳	男性	21 100.0	13 61.9	8 38.1	0 0.0
		女性	27 100.0	16 59.3	**11** **40.7**	0 0.0
	20～24歳	男性	18 100.0	7 38.9	**11** **61.1**	0 0.0
		女性	24 100.0	13 54.2	**11** **45.8**	0 0.0
	25～29歳	男性	17 100.0	8 47.1	**9** **52.9**	0 0.0
		女性	28 100.0	18 64.3	9 32.1	1 3.6
	30～34歳	男性	19 100.0	9 47.4	**9** **47.4**	1 5.3
		女性	38 100.0	24 63.2	13 34.2	1 2.6
	35～39歳	男性	33 100.0	16 48.5	**17** **51.5**	0 0.0
		女性	59 100.0	**40** **67.8**	17 28.8	2 3.4
	40～44歳	男性	32 100.0	**21** **65.6**	10 31.3	1 3.1
		女性	71 100.0	**47** **66.2**	22 31.0	2 2.8
	45～49歳	男性	43 100.0	20 46.5	**23** **53.5**	0 0.0
		女性	61 100.0	**44** **72.1**	15 24.6	2 3.3
	50～54歳	男性	40 100.0	**27** **67.5**	13 32.5	0 0.0
		女性	50 100.0	**35** **70.0**	15 30.0	0 0.0
	55～59歳	男性	35 100.0	17 48.6	**17** **48.6**	1 2.9
		女性	63 100.0	**48** **76.2**	15 23.8	0 0.0
	60～64歳	男性	56 100.0	28 50.0	**27** **48.2**	1 1.8
		女性	65 100.0	**50** **76.9**	15 23.1	0 0.0
	65～69歳	男性	46 100.0	20 43.5	**22** **47.8**	4 8.7
		女性	75 100.0	**49** **65.3**	22 29.3	4 5.3
	70～74歳	男性	61 100.0	30 49.2	**25** **41.0**	6 9.8
		女性	87 100.0	45 51.7	30 34.5	12 13.8
	75～79歳	男性	29 100.0	17 58.6	8 27.6	4 13.8
		女性	53 100.0	28 52.8	12 22.6	13 24.5
	80歳以上	男性	36 100.0	20 55.6	10 27.8	6 16.7
		女性	62 100.0	37 59.7	12 19.4	13 21.0

◆表　ブロック別◆

		サンプル数	知っている	知らなかった	無回答
全　体		1,275 100.0	760 59.6	438 34.4	77 6.0
ブロック別	東部Ａ	91 100.0	53 58.2	33 36.3	5 5.5
	東部Ｂ	80 100.0	**52** **65.0**	20 25.0	8 10.0
	北部Ａ	113 100.0	68 60.2	41 36.3	4 3.5
	北部Ｂ	72 100.0	39 54.2	28 38.9	5 6.9
	中央東部	140 100.0	90 64.3	45 32.1	5 3.6
	南東部	108 100.0	68 63.0	31 28.7	9 8.3
	中央部	177 100.0	103 58.2	65 36.7	9 5.1
	中央南部	205 100.0	127 62.0	64 31.2	14 6.8
	南西部	125 100.0	72 57.6	46 36.8	7 5.6
	西部Ａ	55 100.0	32 58.2	18 32.7	5 9.1
	西部Ｂ	74 100.0	39 52.7	**30** **40.5**	5 6.8

令和３年度久留米市民意識調査結果(速報)について

久留米市民意識調査のうち、セーフコミュニティに関する項目について報告する。
報告書は現在編集中のため、単純集計結果のみの報告である。
表中の集計結果の単位は%、参考のため、過年度調査の単純集計結果を付記。

１．久留米市民意識調査

（１）調査の目的

変化する市民意識の動向と現在の多様な市民ニーズを統計的に把握し、今後の市の施策・事業の検討、推進、評価の基礎データとして活用するため

（２）調査の概要

＊調査対象者・・・久留米市に在住する満18歳以上の人
＊抽出方法・・・・住民基本台帳から、性別・年齢・地域の人口構成比に基づき5,000人を無作為に抽出
＊調査方法・・・・調査票を郵送し、郵送又はインターネットで回収を行う
＊調査期間・・・・令和３年７月27日～8月16日
＊回収数（率）・・2,194票（43.9%）
内、郵送1,718票、インターネット476票

２．市民意識調査の単純集計結果（セーフコミュニティに関する項目）

セーフコミュニティの認知に関すること

問 28　あなたは、久留米市が、セーフコミュニティ国際認証を取得して「安全安心のまちづくり」に取り組んでいることを知っていますか。（あてはまる番号１つだけ）（回答者数 2,194 件）

１．取り組んでいることを知っている（5.6%）　　２．聞いたことがある（17.8%）

３．知らない（74.3%）　　（無回答 2.2%）

過年度調査との比較

調査年次	知っている	聞いたことがある	合計	質問内容
H23	6.6	41.5	48.1	WHO 提唱のＳＣを知っているか
H26	4.8	28.5	33.3	〃
H29	6.3	20.3	26.6	久留米市がＳＣに取組んでいること知っているか
R3	**5.6**	**17.8**	**23.4**	〃

問 30-１　あなたやあなたのご家族がふだん生活する中で、不安に感じることは何ですか。（あてはまる番号いくつでも）（回答者数 2,194 件）（無回答 1.0%）

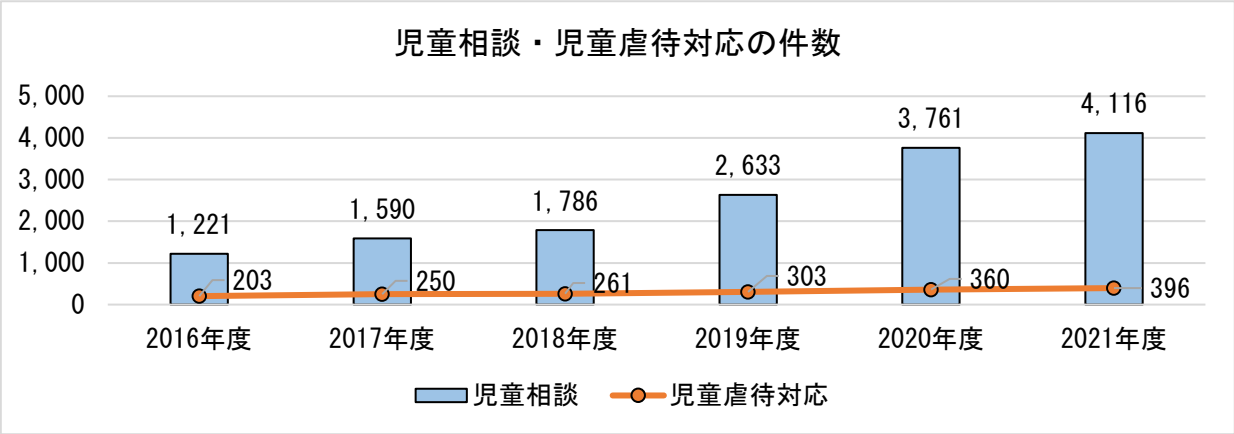
		H23	H26	H29	R3
1	自転車による交通事故		39.	38.	35.
2	自動車による交通事故		70.	73.	68.
3	暴力行為や傷害、強盗などの凶悪犯罪	41.	22.	14.	19.
4	空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪	62.	48.	44.	38.
5	給付金詐欺等の電話を使った特殊詐欺				18.
6	痴漢や強制わいせつ、のぞき・盗撮などの性的犯罪	29.	23.	19.	17.
7	職場でのけがや事故（労働災害）	19.	13.	14.	14.
8	余暇活動や運動中のけがや事故	10.	7.	6.	7.
9	学校や登下校時のけがや事故	24.	21.	23.	21.
10	家庭内でのけがや事故(乳幼児や高齢者の転倒など)	28.	14.	13.	16.
11	**家庭内での暴力や虐待**	**12.**	**3.**	**3.**	**1.**
12	心の病や自殺	23.	13.	15.	10.
13	地震や大雨などの災害		54.	63.	71.
14	特にない	3.	5.	3.	4.

2021 年度取り組み実績

児童虐待防止対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
児童虐待の防止	2-①	新生児訪問事業の地域連携
	2-②	赤ちゃんふれあい体験事業
	2-③	児童虐待防止啓発事業

ア．成果〈数値で表せるもの〉



※児童虐待や相談窓口の周知に伴い増加の見通し。児童虐待対応件数は長期での減少を目指す。

イ．成果〈数値で表せないもの〉

新生児訪問の地域連携

・主任児童委員が訪問する事で顔が見える関係となり、子育てサロンへの参加や、子育ての困り事についての気軽な相談につながった。

ウ．2021 年度の取組で最も成功した事例

新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した啓発活動の実施

・街頭キャンペーンのかわりにオレンジリボン・マスク・啓発カードをセットした啓発物を配布。配布は、要保護児童対策地域協議会や対策委員会の構成機関と連携して取り組んだ。また、本庁舎を児童虐待防止対策のシンボルカラーであるオレンジと女性に対する暴力をなくす運動のシンボルであるパープルにライトアップし、協働して啓発に取り組んだ。

エ．2021 年度で最も積極的に取り組んだ活動

子どもの権利や児童虐待に関する地域、民間団体、学校と連携した取組

・市立小学校の 4 年生を対象に、子ども自らの相談する力やＳＯＳを発信する力の育成を図るための授業を実施した。併せて、地域・教職員・保護者が一体となり地域全体で子育て支援や虐待予防に取り組むことができるよう、教職員向けの研修や地域向けの研修も行った。

オ．分野横断的に行っていること

要保護児童対策地域協議会との連携

・警察や児童相談所などの２２の関係団体で構成する要保護児童対策地域協議会の代表者会議や実務者会議等を通して、児童虐待防止の取り組みを行っている。

カ．今後の方向性や取り組みを進める上での課題

「赤ちゃんふれあい体験事業」の実施

・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2020、2021 年度と従来の赤ちゃんふれあい体験事業ができなかった。今後、学校と地域の状況に応じて実施を再開していく予定であるが、感染症対策を行った取り組みの手法について、十分協議する必要がある。また、継続した取り組みとなるよう、各校区・地域と市の協働での取り組み手法を整理しておくことも肝要である。

事業の効果的・効率的な実施における課題

・短期、中期、長期指標について、児童虐待防止という成果がこれらの指標に示された数字だけでは図れない部分があり、事業の効果を実証するのが難しい。

2022 年度取り組み方針

児童虐待防止対策委員会

具体的施策		2022 年度取り組み方針
2-①	新生児訪問事業の地域連携	**新生児家庭への同行訪問の実施** ・民児協の主任児童委員部会、市（こども子育てサポートセンター）による協議を行いながら、新型コロナウイルス感染症対策を行った同行訪問を実施する。
2-②	赤ちゃんふれあい体験事業	**「赤ちゃんふれあい体験事業」の実施** ・地域と学校と対策委員会が連携し、新型コロナウイルス感染症対策を行った取り組みの手法について検証し、可能な範囲で実施する。
2-③	児童虐待防止啓発事業	**児童虐待防止と相談窓口のさらなる周知** ・児童虐待防止の認識と子育てに関する相談窓口等を、一層多くの市民に周知する実施内容等の検討を進める。あわせて、子ども自らの相談する力等を育成するため、子どもに対する効果的な啓発方法を検討する。

【児童虐待防止】２－①新生児訪問事業の地域連携

課題	客観的課題	・地域で子育て家庭が孤立している ・虐待者の約６０％が実母である
	主観的課題	~~・子育てに困難を感じている保護者が多い~~ ・子育てに困難を感じながらも、相談する人がいない人が存在している ~~・子育ての相談相手がいない、相談窓口を知らない人が多い~~ ・子育てに関する相談窓口を知らない人が一定数存在している
目標		地域で気軽に相談できる体制作り
内容		市が行っている「新生児訪問事業」の地域連携として、各地域の住民の一人でもある主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ
対象者		子育て中の家庭の母親
実施者		市（こども子育てサポートセンター）、主任児童委員
対策委員会の関わり		構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の主任児童委員が同行訪問する
2021 年度の実績及び改善した点等		・市内４校区（荘島、小森野、金島、津福）において、市が行っている「新生児訪問事業」に主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ取り組みを行った。 ・2020、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、主任児童委員の訪問件数が減少した。
2022 年度の方針及び課題等		民児協の主任児童委員部会、市（こども子育てサポートセンター）と協議を行いながら、新型コロナウイルス感染症対策を行った同行訪問を実施する。

指標	内容	単位		2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	主任児童委員による妊産婦や子育て家庭への家庭訪問件数	件		13	14	48	31	27
【短期】認識・知識	子育てに関する相談窓口の認知度［セーフコミュニティ実態調査］	%		2021 年度より実施				59.6
【中期】態度・行動	子育てに困難を感じることがよくある人のうち、相談していない人の割合［セーフコミュニティ実態調査］	%		2021 年度より実施				9.4
【長期】状況	児童虐待の発生件数（①児童相談の件数　②児童虐待の対応件数） ※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	件	①	1,590	1,786	2,633	3,761	4,116
			②	250	261	303	360	396

【児童虐待防止】２－② 赤ちゃんふれあい体験事業

課題	客観的課題	・親になるための教育が十分でないと感じている保護者が３０％近くいる
	主観的課題	・核家族化や地域とのつながりの希薄化などの影響により、~~自分が親になる前に子ども~~ 大人になる前に小さな子ども と接する機会が減少している
目標		~~親になるための十分な~~ 命の大切さを学ぶ教育の支援
内容		~~将来、親になる~~ 中学生に 乳幼児とのふれあいや 子育て体験をしてもらう
対象者		中学生、２０１５年度から小学生にも対象拡大
実施者		各校区のすくすく子育て委員会
対策委員会の関わり		構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が実施している
2021 年度の実績及び改善した点等		地域・小中学校・市との協働によりを実施。2020、2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、乳幼児とのふれあいは中止した。 ［中学校］実施予定７校 青陵中学校　：中止 江南中学校　：中止 良山中学校　：１０月１５日　助産師による講話のみ実施 田主丸中学校：中止 明星中学校　：４月２７日　助産師による講話のみ実施 宮ノ陣中学校：中止 三潴中学校　：７月中旬 中学校と久留米大学との連携による講話、人形を使った沐浴体験、妊婦体験 ［小学校］実施予定２校 荘島小学校　：１２月２１日　助産師による講話、人形を使った沐浴体験、妊婦体験 小森野小学校：中止
2022 年度の方針及び課題等		地域と学校と対策委員会が連携し、新型コロナウイルス感染症対策を行った取り組みの手法について検証し、可能な範囲で実施する。

指標	内容	単位		2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	赤ちゃんふれあい体験・保育体験等の実施学校数	校		8	9	8	未実施	未実施
【短期】認識・知識	命の大切さについての認識の向上［参加者アンケート］	％		95.8	92.5	96.4	未実施	未実施
【中期】態度・行動	赤ちゃんふれあい体験等の新規実施校数	校		2	2	1	0	0
【長期】状況	児童虐待の発生件数（①児童相談の件数　②児童虐待の対応件数） ※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	件	①	1,590	1,786	2,633	3,761	4,116
			②	250	261	303	360	396

【児童虐待防止】2－③ 児童虐待防止啓発事業

課題	客観的課題	・虐待を受けた子どもの大半は、小学生以下である ・子ども自身からの相談が少ない
	主観的課題	・子どもが虐待に関する正しい知識を得るための学習機会が少ない
目標		子ども自身から相談できる体制づくり
内容		・啓発活動（オレンジリボンの作製、街頭キャンペーン） ・児童虐待防止の講演会の実施 ・子ども自ら相談する力の育成
対象者		一般市民
実施者		主に久留米市要保護児童対策地域協議会
対策委員会の関わり		対策委員会の構成メンバーと連携した啓発活動等の実施
2021年度の実績及び改善した点等		・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、街頭キャンペーンは中止した。 ・10月2、3日にWe Love久留米協議会が主催した「秋のスタンプウォーク」で、オレンジリボン・缶バッチを配布した。 ・11月11日に久留米警察署が主催した「面前ＤＶ防止」啓発に参加し、併せて相談窓口啓発カード等の配布を行った。 ・11月の児童虐待防止月間に、オレンジリボン・マスク・相談窓口啓発カードを要保護児童対策地域協議会や対策委員会の構成機関と連携し窓口等で配布した。また、オレンジパープルツリーの設置や本庁舎のライトアップを行った。 ・市立小学校の4年生を対象に、子ども自らの相談する力やＳＯＳを発信する力の育成を図るための授業を実施した。併せて、教職員向けに研修や地域向けの研修も行った。 ・夏休み期間と11月の児童虐待防止月間に、保護者向けに子育て応援動画を配信した。
2022年度の方針及び課題等		児童虐待防止の認識と子育てに関する相談窓口等を、一層多くの市民に周知する実施内容等の検討を進める。あわせて、子ども自らの相談する力等を育成するため、子どもに対する効果的な啓発方法を検討する。

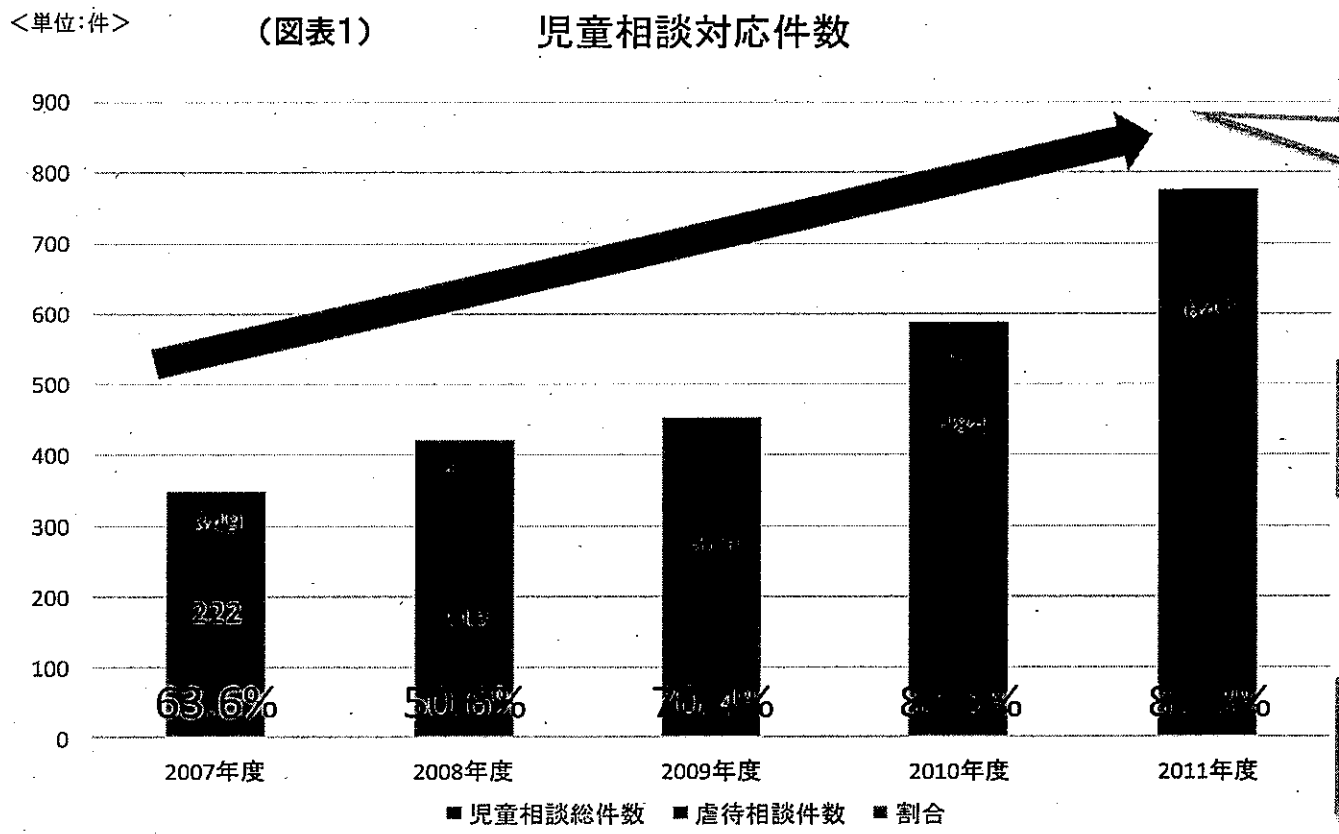
指標	内容	単位		2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	イベントや講習会等の参加者数	人		1,130	956	890	中止	327
【短期】認識・知識	子どもの権利や児童虐待についての知識の向上[啓発チラシの配布枚数]	枚		継続的に実施していたが未集計		3,095	3,890	6,686
【中期】態度・行動	子どもの権利のや児童虐待についての知識の向上[啓発チラシの配布枚数] ※短期指標と同じ。今後子どもへの啓発事業等が進めば見直す予定。	枚		継続的に実施していたが未集計		3,095	3,890	6,686
【長期】状況	児童虐待の発生件数（①児童相談の件数　②児童虐待の対応件数） ※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	件	①	1,590	1,786	2,633	3,761	4,116
			②	250	261	303	360	396

４．協議事項（２）

久留米市セーフコミュニティ
児童虐待防止対策委員会

発表日　2022年　　月　　日
発表者　児童虐待防止対策委員会　委員長　吉岡 マサヨ
所　　属　ＮＰＯ法人 ル・バトー

1-１.児童虐待防止対策委員会の設置の背景　<取組開始時>



※久留米市家庭子ども相談課集計データ

児童虐待に関する相談件数が年々増加傾向

↓

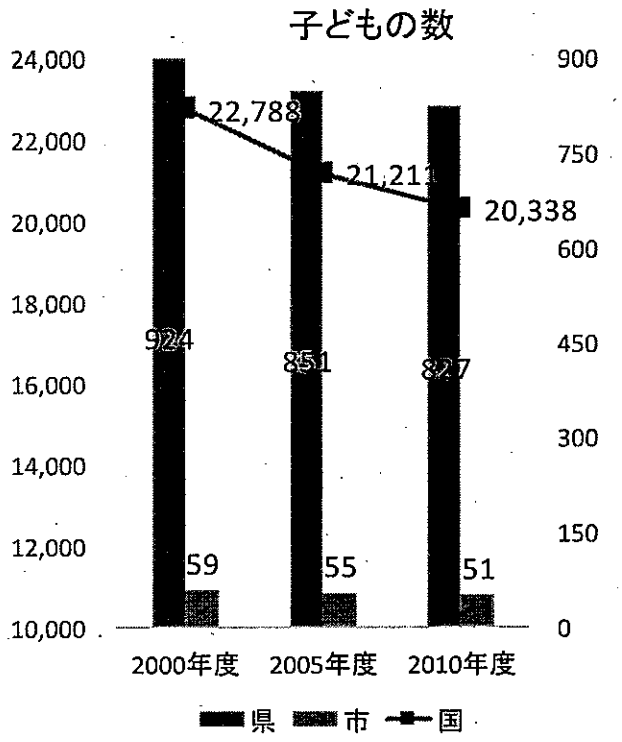
児童虐待防止のため取組の強化が必要

↓

セーフコミュニティで児童虐待防止の取組を！

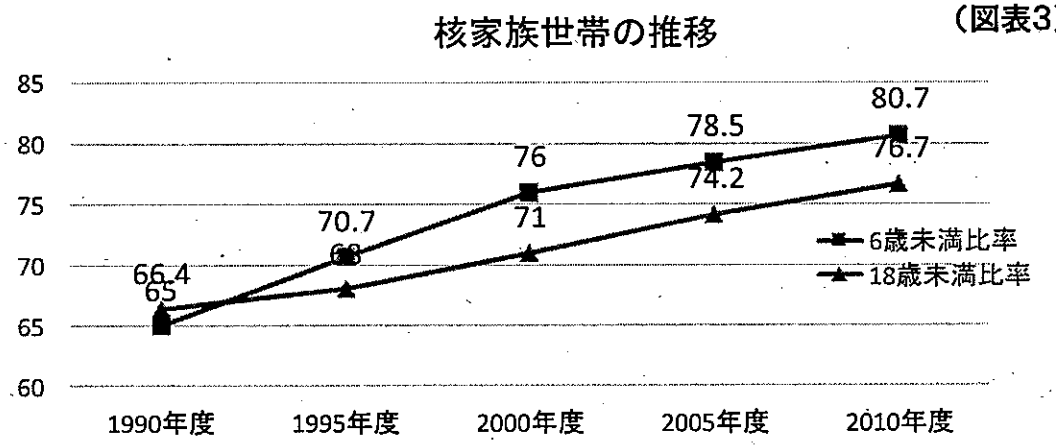
1-2.児童虐待防止対策委員会の設置の背景　<取組開始時>

（図表2）

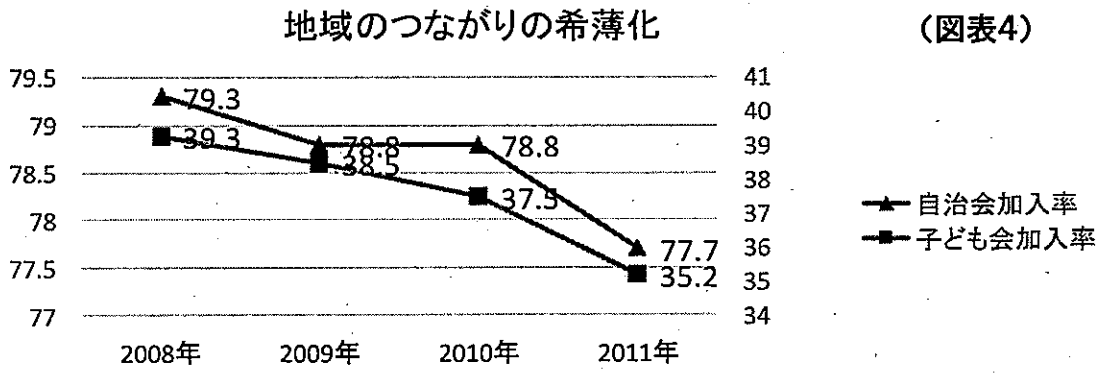


◇国・県・久留米市における子ども（18歳未満）の数の推移
※国勢調査に基づく

（図表3）



（図表4）



1-3.児童虐待防止対策委員会の設置の背景　<取組開始時>

（図表5）

	発生日	事件名	被害児	加害者
1	2010年6月	傷害致死事件	5歳女児	実母
2	2011年8月	傷害・保護責任者遺棄事件	2歳女児	実母・内夫
3	2012年2月	傷害事件	4歳男児	実父
4	2012年5月	乳児死体遺棄事件	0歳男児	実母
5	2012年7月	傷害事件	5歳女児	実母

久留米市において児童虐待の重大事件が発生

↓

それぞれの家庭が地域から孤立していた

↓

セーフコミュニティで子育て家庭の孤立化を防ぎ児童虐待防止へつなげる

2.児童虐待防止対策委員会の構成メンバー(2022年現在)

（図表6）

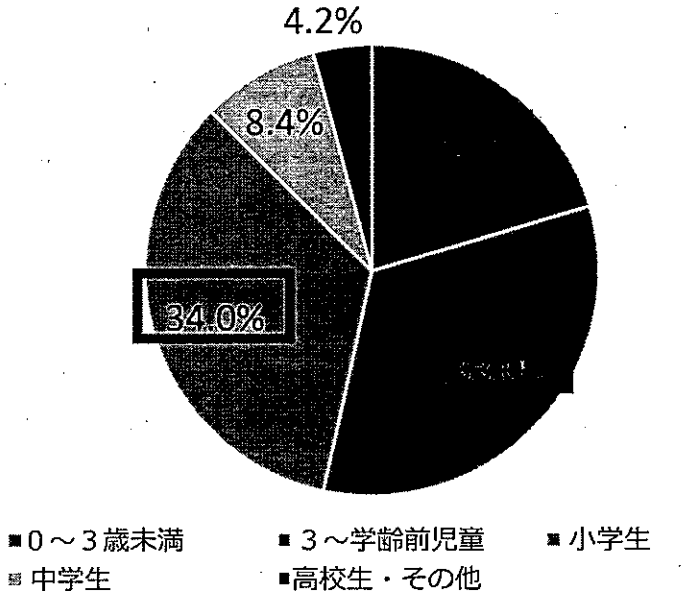
区分		所属
民間団体 住民組織等	1	久留米市私立幼稚園協会
	2	久留米市民生委員児童委員協議会
	3	（一社）久留米市保育協会
	4	（特活）にじいろＣＡＰ
	5	（特活）ル・バトー
	6	（特活）子育て支援ボランティアくるるんるん
	7	久留米市小・中学校ＰＴＡ連合協議会
	8	久留米市校区まちづくり連絡協議会
関係機関	9	福岡県久留米児童相談所
	10	久留米警察署
行政機関	11	久留米市子ども未来部子ども政策課
	12	久留米市子ども未来部こども子育てサポートセンター
	13	久留米市子ども未来部家庭子ども相談課
	14	久留米市教育部学校教育課

2019年追加

3-1.データに基づく課題

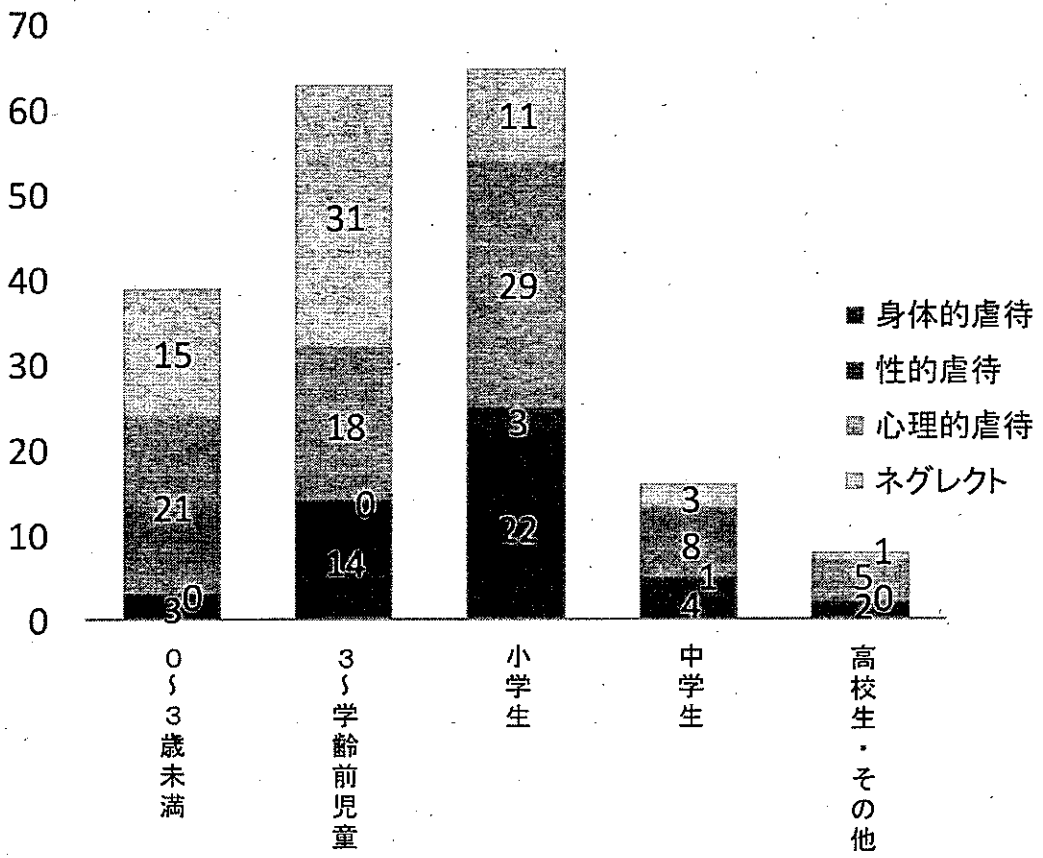
被害者の約87％が小学生以下

（図表7）　**虐待被害者の年齢構成（2021年度）**



※久留米市家庭子ども相談課集計データに基づく

（図表8）　**虐待の種類別・年齢別対応件数（2021年度）**



※久留米市家庭子ども相談課集計データに基づく

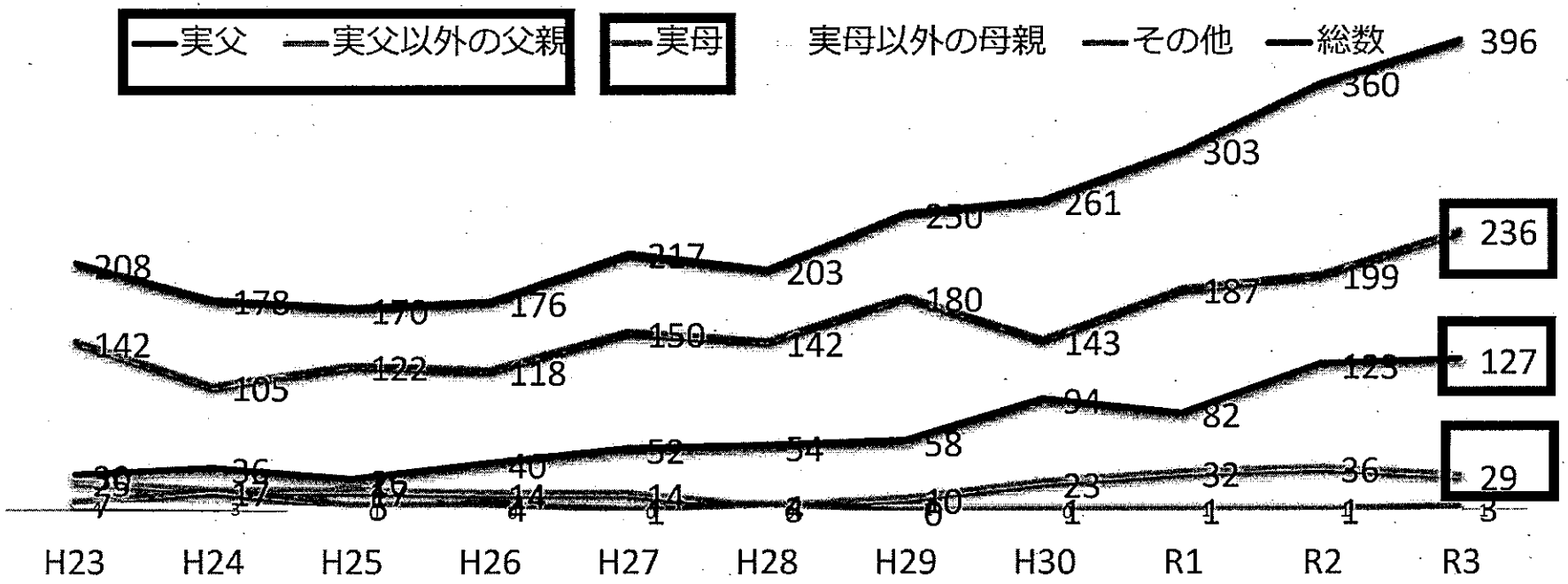
3-2.データに基づく課題

虐待者の約6割が実母であるが、父親の割合も増えている

（図表9）

虐待者別対応件数

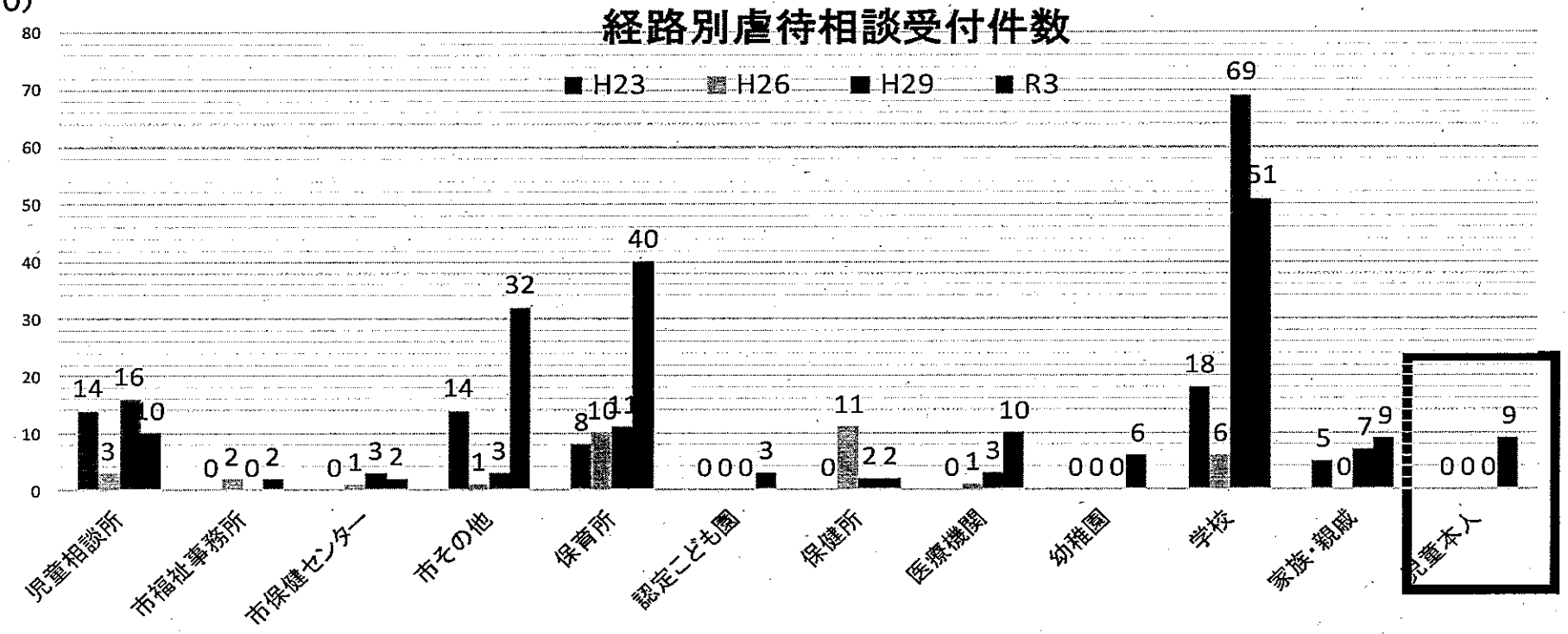
※久留米市家庭子ども相談課集計データ



3-3.データに基づく課題

子ども自身からの相談が少ない

（図表10）



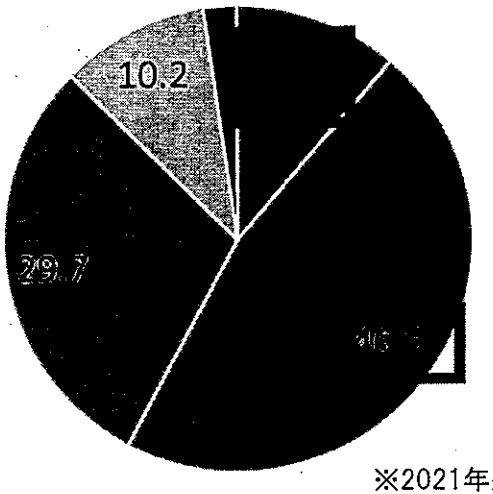
※久留米市家庭子ども相談課集計データ

3-4.データに基づく課題

子育ての困難を感じたことがある人が約6割いる

子育てに困難を感じることの有無

（図表11）　＜単位：%＞

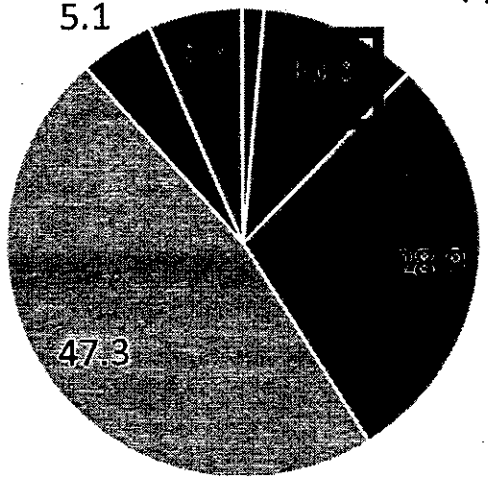


※2021年久留米市SC実態調査

■よくある　■ときどきある　■ほとんどない
■全くない　■ 無回答

児童虐待をしているのではないかと思った経験

（図表12）　＜単位：%＞



※2021年久留米市SC実態調査

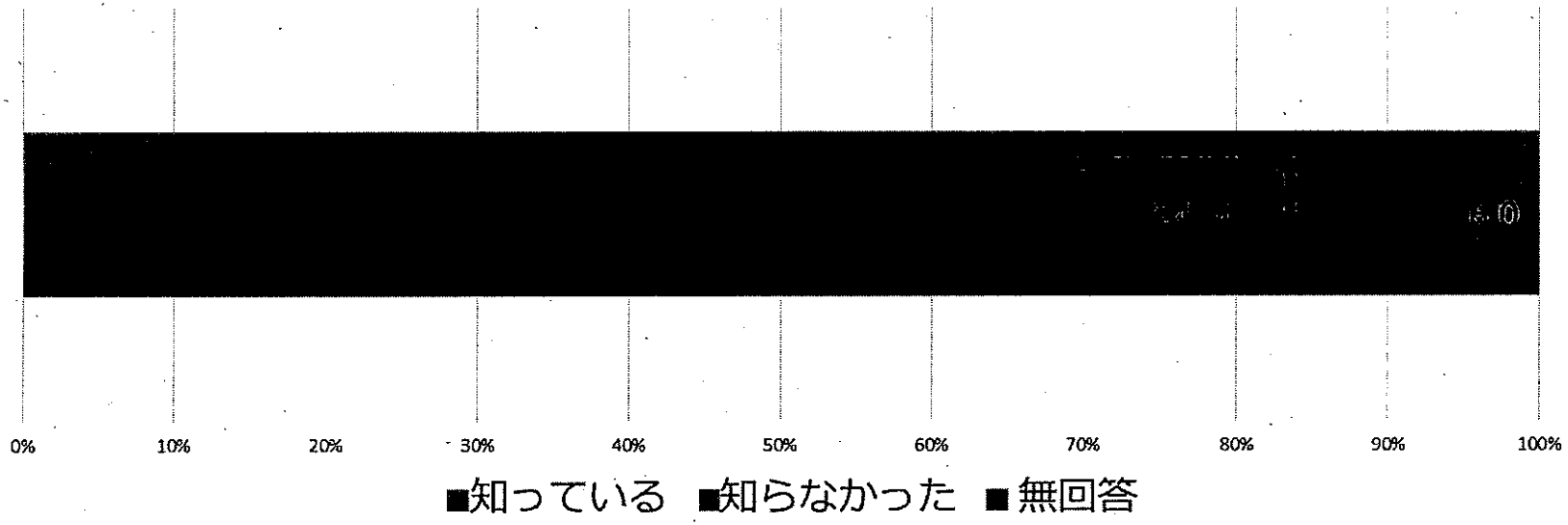
■よくあった　■ときどきあった　■ほとんどなかった
■全くなかった　■わからない　■ 無回答

3-5.データに基づく課題

子育てに関する相談窓口を知らない人が一定数存在している

（図表13）

子育てに関する相談窓口について



※ 2021年久留米市SC実態調査

3-6.データに基づく課題

子育てに困難を感じながらも相談する人がいない人が存在している

（図表14）　**子育てに関して相談できる人がいるか【子育ての困難さを感じるかの有無別】**（複数回答）

		サンプル数	同居中の家族	友人や知人	他に住んでいる親族	市家庭子ども相談課など市の相談窓口	民生委員や主任児童委員	NPOなど民間の相談機関	県や国の相談機関	その他	相談できる人はいない	無回答
全　体		471 100.0	293 62.2	243 51.6	217 46.1	17 3.6	12 2.5	8 1.7	3 0.6	8 1.7	14 3.0	37 7.9
子育ての困難さを感じるかの有無別	よくある	53 100.0	28 52.8	28 52.8	24 45.3	7 13.2	4 7.5	2 3.8	0 0.0	[illegible] 5.[illegible]	5 9.4	2 3.8
	ときどきある	219 100.0	143 65.3	130 59.4	113 51.6	4 1.8	5 2.3	5 2.3	1 0.5	4 1.8	4 1.8	4 1.8
	ほとんどない	140 100.0	94 67.1	70 50.0	62 44.3	5 3.6	3 2.1	1 0.7	1 0.7	0 0.0	4 2.9	15 10.7
	全くない	48 100.0	27 56.3	13 27.1	18 37.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	1 2.1	1 2.1	1 2.1	7 14.6

※ 2021年久留米市SC実態調査

4.課題解決のための目標と具体的施策

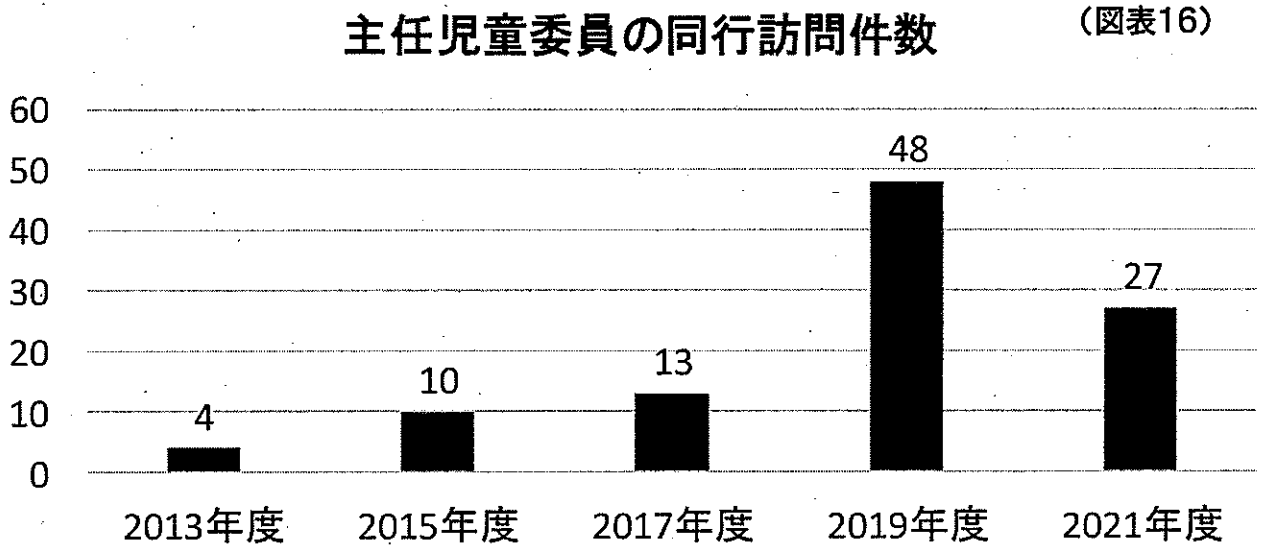
課　題	目　標	具体的施策
・虐待者の約6割が実母である 【データ3-2】 ・子育てに困難を感じる 【データ3-4】 ・相談窓口を知らない人がいる 【データ3-5】 ・相談できない人がいる 【データ3-6】	地域で気軽に相談できる体制作り	①新生児訪問事業の地域連携
・子育てに困難を感じる 【データ3-4】 ・大人になる前に小さな子どもと接する機会が減少している 【社会的背景】	命の大切さを学ぶ教育の支援	②赤ちゃんふれあい体験事業
・虐待被害者の多くが小学生以下である 【データ3-1】 ・子ども自身からの相談が少ない 【データ3-3】	子ども自ら相談できる体制づくり	③児童虐待防止啓発事業

5.レベル別の対策

（図表15）

目標	対策			
	分類	国県レベル	市レベル	地域レベル
地域で気軽に相談できる体制作り	教育・啓発		相談窓口の周知	【対策委員会】①新生児訪問事業の地域連携
	環境整備	子ども子育て支援法	こんにちは赤ちゃん訪問事業	見守り活動
命の大切さを学ぶ教育の支援	教育・啓発		相談窓口の周知 思春期保健出前講座	【対策委員会】②赤ちゃんふれあい体験事業
	環境整備	子ども子育て支援法	校区サロンの実施	校区サロンの実施、参加
子ども自ら相談できる体制作り	教育・啓発	児童虐待防止推進月間（オレンジリボン運動）	オレンジリボンキャンペーンの実施	【対策委員会】③児童虐待防止啓発事業
	環境整備	児童福祉法	子どもの権利等啓発事業	研修会への参加

6-1-1.取組事例・成果
①新生児訪問事業の地域連携



主任児童委員の同行訪問

子育て家族と地域をつなげ
孤立化を防ぐ

6-1-2.取組事例・成果
①新生児訪問事業の地域連携

子育ての不安・悩み相談

『子育てサロン』の紹介

子育てサロンのチラシ

きっかけづくり

6-2-1.取組事例・成果
②赤ちゃんふれあい体験事業

地域の「子育てサロン」を中学校へ

出産や子育ての話と
赤ちゃんとのふれあい

【中学生へのアンケート】

・赤ちゃんは、とても小さくて、柔らかくて、ちょっとしたことで壊れてしまいそう… でも、とてもあたたかくて、重さもあって、「ああ、生きているんだな…」。

・将来、自分の子どもができたら、 しっかり大切にして、いい子どもに育てたい。

6-2-2.取組事例・成果

②赤ちゃんふれあい体験事業

実施学校数

2校 【2012年】 → 8校 【2017年】 → 8校 【2019年】

妊婦・子育てへの理解

家事や育児への協力

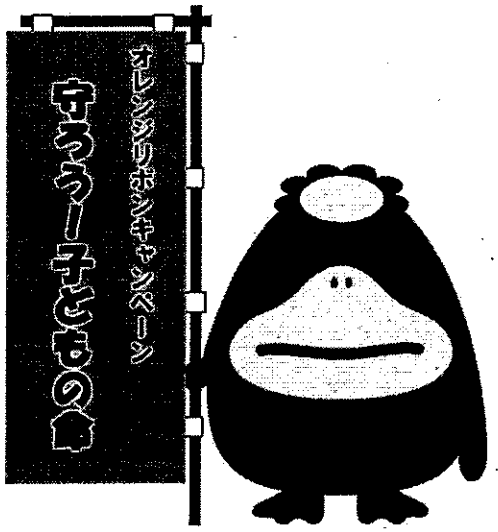
【中学生へのアンケート】

・すごく重い！動きにくいし、下は見えない！お母さんたちは、大変な思いをして産んでくれたんだなあ

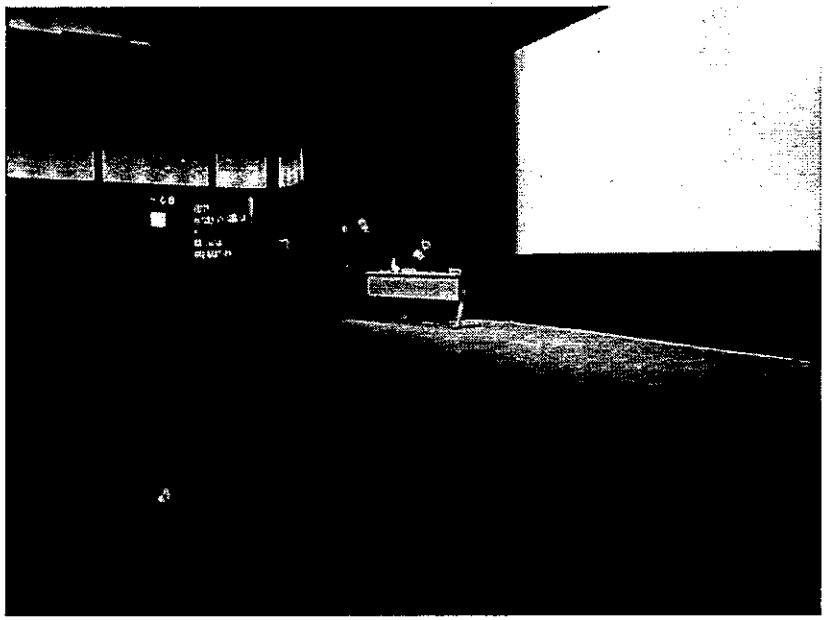
6-3-1.取組事例・成果
③児童虐待防止啓発事業

オレンジリボン・チラシの配付

子育て世代のお父さんへ



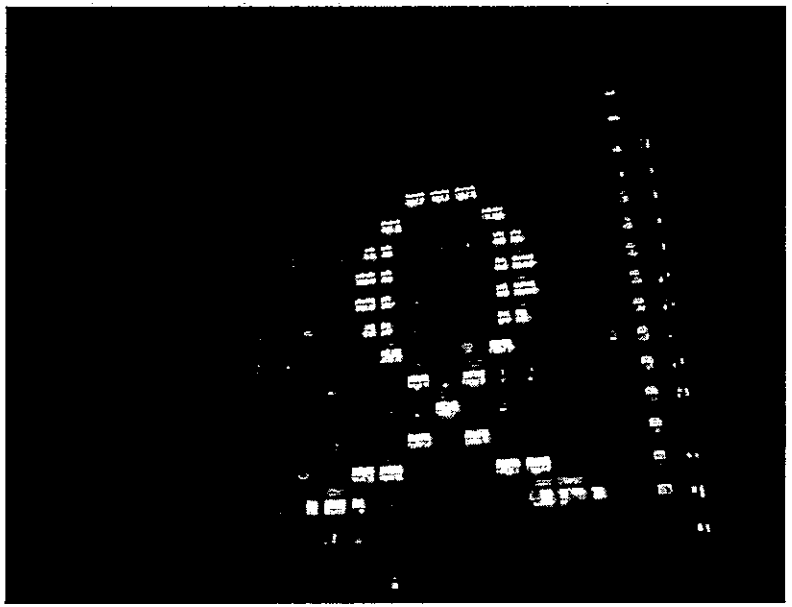
6-3-2.取組事例・成果
③児童虐待防止啓発事業



児童虐待防止講演会

子ども自らの相談する力等の育成を図る授業

7.新型コロナウイルス感染拡大防止の工夫
児童虐待防止啓発事業

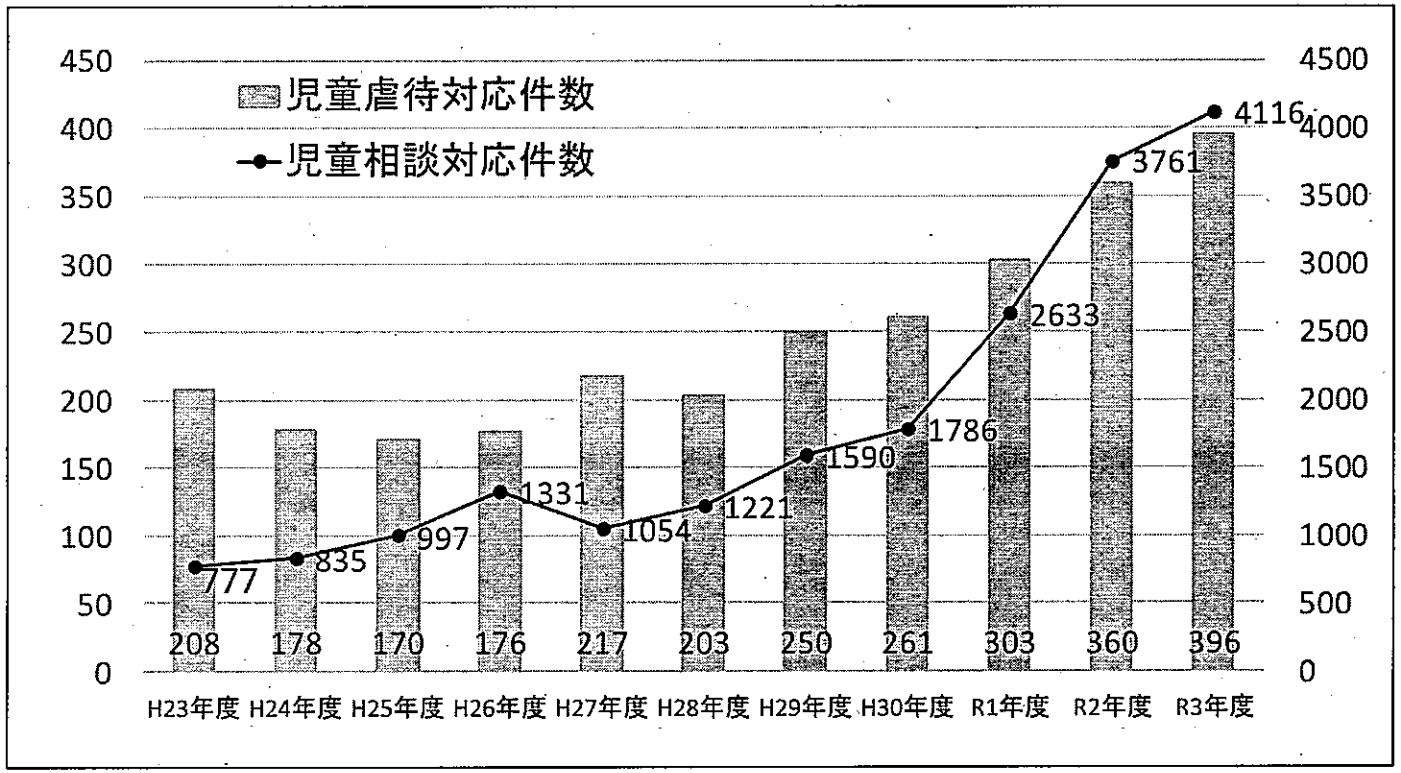


子育て応援動画の配信

市庁舎のライトアップ

8.取組による全体の成果

（図表１７）　**児童相談対応件数と児童虐待対応件数の推移**



※久留米市家庭子ども相談課集計データ

児童虐待の認識と相談窓口の認知

↓

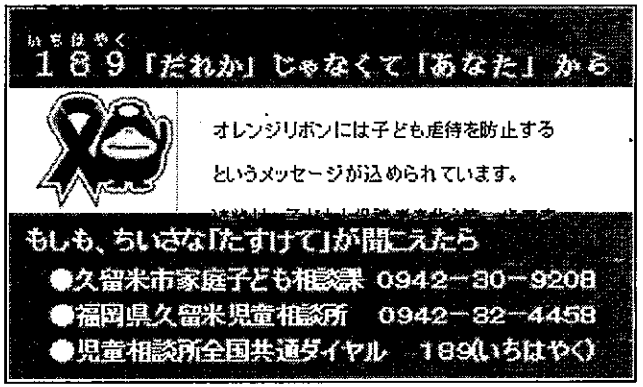
相談対応件数の増加

↓

早期発見・早期対応へ

9.再認証後の変化・気づき

（児童虐待防止啓発カード）



子育てサロンへつなぐだけではない孤立化を防ぐ取組

赤ちゃんふれあいに代わる体験の工夫

関係機関との連携やオンライン等さまざまな手法による啓発

子どもが自らの相談する力やＳＯＳを発信する力の育成

10.課題と今後の対応

父親が虐待者である割合が増えてきている

・父親への啓発の工夫

相談窓口を知らない人が一定数いる、相談できていない人がいる

・気軽に相談できる取組

子ども自身からの相談が少ない

・「子ども自らの相談する力等の育成を図る授業」を継続的に実施

ご清聴ありがとうございました。

児童虐待防止対策委員会

2. 協議事項(3)

広報啓発について

セーフコミュニティに関する市民の理解を深めるため、令和４年度から令和５年度にかけて、対策委員会の取組を「広報久留米」に隔月のシリーズで掲載します。また、昨年の市民意識調査の結果によると市民の皆様の情報取得媒体が多岐にわたることから、広報掲載とともに YouTube で動画も公開します。このほか、SNS を活用した周知・啓発についても検討中です。

掲載予定は以下のとおりです。

●掲載の概要

	広報久留米	動画
テーマ	データと成果	活動の様子とインタビュー
分量	1/2 ページ	5 分～10 分程度

●掲載月・内容（案）

対策委員会等	広報誌掲載月	広報久留米	動画公開月	動画
SC 全体	R4.7	・ケガや事故	R4.6	・救急搬送の現場から
防犯	R4.9	・街頭犯罪の認知件数 ・青パト校区数	R4.8	・青パト活動の様子
交通安全	R4.11	・事故発生件数	R4.10	・秋の交通安全キャンペーン ・見守り活動
防災	R5.1	・防災士・防災リーダーの養成数 ・スキルアップ研修会の参加者数	R4.12	・防災リーダー養成講座 ・校区の防災訓練の様子
自殺予防	R5.3	・研修会の開催回数、受講者数 ・参加者の意識変化（アンケート） ・かかりつけ医連携報告の件数	R5.2	・筑後かかりつけ医・産業医と精神科医連携研修会
DV 防止	R5.5	・理解度、講座感想等	R5.4	・デートＤＶ授業風景 ・パープルリボンキャンペーン
児童虐待防止	R5.7	・イベントや講習会の参加者数 ・啓発チラシの配布枚数 ・児童相談の件数、児童虐待の対応件数	R5.6	・オレンジリボンキャンペーン ・CAP プログラム（教職員・地域向け）
学校安全	R5.9	・学校のケガや事故のデータ	R5.8	・地域との連携
高齢者の安全	R5.11	・転倒予防対策を行う人の割合 ・高齢者（65 歳以上）の事故種別内訳 ・死亡統計における不慮の事故等	R5.10	・にこにこステップ運動教室 ・転倒予防パンフレットの配布

※掲載順・内容は今後、変更になる場合があります。

3. その他

対策委員会（8組織）	No.	対策委員会の施策	ワークシート意見
交通安全対策委員会	1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施	・免許証を自主返納された方には、グッズを贈呈（スニーカーや運動着等）
	1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施	・反射材を身に付けることで、交通事故数の拡大を防げる要素があるのであれば、いっそのこと全戸配布とする。 ・反射材の有効性を知らない人が多い⇒効果を体験し実感できる啓発が必要では？ ・夕方や夜のイベントや行事に合わせた啓発の実施
	1-③	交通安全教室の実施	・ショッピングモールで、家族連れをターゲットにした交通安全教室を開催する。 ・学校でのオンライン授業の合間に交通安全に関する動画を流す。
	1-④	自転車安全利用キャンペーンの実施	・SC 等の広報を利用して学校、校区内の集まり時に歩行時、自転車利用時のルールについて遵守依頼するとともに、現在遵守できていない状況も報告する ・交通指導員へ立ち番を依頼する
児童虐待防止対策委員会	2-①	新生児訪問事業の地域連携	・SNSの利用　動画などを用いて取り組みを紹介（役に立つ情報をテーマ別にシリーズ化する、もっと詳しく知りたいと思ったこと、実際に指導して欲しいと思ったら訪問を申し込む） ・出生届提出時窓口での周知
	2-②	赤ちゃんふれあい体験事業	・家庭科の授業を利用する、ZOOMによる授業も可能。母親だけでなく、保育士、保健師・助産師、産婦人科や小児科の医師などをゲストティーチャーとして招く ・出生届提出時窓口での周知
	2-③	児童虐待防止啓発事業	・父親など親族からの性的虐待などには特に、厳しい処罰などの法制化を進め、社会的な制裁があること周知する。 ・SNSの利用　動画などを用いて取り組みを紹介（ネガティブなものではなくポジティブな情報を発信し、ストーリー化などの工夫も） ・教育現場の先生方に虐待対応について学んでもらうために、先生方の研修会や校長会に児相の職員が虐待対応の研修を行う ・地域の方々が受け入れる体制
学校安全対策委員会	3-①	学校内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取り組みの実施	
	3-②	いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取り組みの実施	・当事者と学校任せにせず、警察や弁護士などの第三者を積極的に介入させて早期解決を目指す。また、被害者には学校以外で教育権を保障される場を提供する。 ・学校と家庭と地域との連携を密にすることが大事で、学校等の情報開示する必要がある
	3-③	火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施	・自宅から、地域の方、特に高齢者や体が不自由な方と中学生の合同で避難訓練をしてみることも大切。
	3-④	交通安全教育の実施・地域、保護者と連携した交通指導の実施	・幼稚園、保育園、小学校などでの啓発に参加した園児や児童から家族にもつながる取組をする。例えば、委員会で作ったステッカーに、参加した児童のメッセージや園児の絵などを加えて、車の運転席などに貼るなどし、安全運転の意識が高まるようにする。

	3-⑤	地域・保護者と連携した児童への 防犯教育の実施	・活動は良く知られているが参加者が限定的⇒気軽に参加できる体制(しくみ)が必要では？ ・パトロール体験日を設けるなど講習受講者以外が参加するような企画の実施 ・住民などにも知ってもらう必要がある ・警察の広報活動が必要
高齢者の安全対策委員会	4-①	転倒予防に関する普及・啓発	・存在自体を知らないと思う。長寿支援課を通じ、医療機関や介護施設にも配布したり、置かせてもらったりする ・地域の中学生に訪問してもらい、高齢者に日々の生活を聞く。その時に高齢者から「健康づくり、体力維持、介護予防」の話をしてもらう。 ・高齢者の病院受診の待ち時間等を活用し、転倒予防につながる取組として、壁や椅子など見えやすい場所に、座ってできるような脚の筋力トレーニング方法を掲示する。
	4-②	転倒予防のための健康づくり、 体力維持、介護予防	・老人クラブが主体となって、ステップアップ運動があっている。時たま指導者がきてくれる。交流と健康づくりができ、大変いい事業である。提案「老人クラブや町内の総会等あらゆる機会に、実演してみせる。」 ・学生、現役、高齢者世代など集まりやすい場所にて幅広くまずは普及啓発を行う。そのうえで、内容を知って頂き、小地域での活動に繋げていくのはどうかと考えます。
	4-③	虐待や認知症に関する講演会・学習会 の開催	・認知機能の低下に対して、最新情報や認知機能が低下してもうまく遂行できる工夫などを集めて発信する場所（空き家の活用でもよいし、インターネット上でもよい）を設け、市民の質問や相談を専門家が受けるなどの取り組み。 ・認知症サポーター養成講座について、教育機関・職場（金融機関、スーパー）等にもしかけていき、認知症に対しての応援者を増やしていく。虐待についても併せて行っていく。 ・「認知症に自分もなるかもしれない」という不安感を持ってもらい、今は人のため、将来は自分のためという啓発活動を行う ・地域の中学校で生徒向けの虐待や認知症の学習会を開催してもらう。地域の高齢者をお誘いし、その学習会の中で交流を図る。
	4-④	介護サービス提供事業所向けの 虐待防止研修	・事業所向けについての研修は一定程度行われていると思いますが、家族や施設職員等から暴言などの実態もあるのではないかという話を聞いたりします。管理職員から新入職員まで、日々の業務で虐待が起きないような研修内容が必要かとも考えます。 ・虐待にかかわる研修が多数あるため、それが何なのかはわからないことも多いが、虐待に関しては新聞沙汰にもなるため、児童も高齢者も関心は高くなっていると思う。インセンティブがあるとより関心が高くなるのではないか。「●●をやってみよう！」という気持ちが足りない。
	4-⑤	地域で高齢者を見守るネットワークの構築	・くるめ見守りネットワークによる好事例の紹介（市報、マスコミなど）また、感謝贈呈など。 ・校区社協等が行っている見守り訪問活動に対する支援（市報等での活動紹介、活動資金の補助の制度づくりなど） ・校区社協、自治会、民生委員等で見守りが必要な人の情報を共有し、それぞれが連携して見守る仕組みをつくる。 ・現在、1,人 2 人世帯が多くなり、支え合うことが必要なため、今までは、市政だよりや回覧板などポストへ入れていたが、今後は

			一言声をかけ、大雨の時など安全を確認できるよう町内役員及び自治員などにお願いする
防犯 対策委員会	5-①	自転車ツーロックの推進	・自転車購入時に店舗で装着を勧める。ツーロックでの自転車販売を基本とする。 ・盗難が少ない市などの成功事例を紹介する。
	5-②	青パト活動団体の拡大・連携強化	・青パト活動の拡大は、効果を見せることが関心の増につながるのでは。しかし、効果の見える化は難しい…。 ・活動は良く知られているが参加者が限定的⇒気軽に参加できる体制(しくみ)が必要では？ ・パトロール体験日を設けるなど講習受講者以外が参加するような企画の実施 ・登下校時に時間を取れるかたをもっと積極的に募集する必要有 ・こどもと一緒にパトロールを行う(親と子、先生と子、スポーツ等の監督コーチと子) ・ボランティアの人員確保のため、定期的に会合を実施し、ボランティアに参加するごとにポイントを付与し、食品等の生活に関するものを贈呈する ・若い人への参加のアピールを増加し、気軽に参加できない状態にする。義務感を減らすことも大事。 ・各自治単位で当番制を設けたら新しい人材が発見できると思う
	5-③	安全・安心感を高めるための地域環境の整備	・地域での防犯カメラの効力がどのような時に必要とされるのか、具体的な映像を地域住民や PTA 関係者にしちょうしてもらい、設置の必要性を理解してもらう。 ・防犯カメラを設置していることを周知し、予防につながる取組を行う。例えば、「私たちの地域には、防犯カメラを設置しています」などの、のぼり旗を設置する。
	5-④	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催	・暴力団対策は 46 校区のなかで知恵を絞り啓発活動に取り組んでいるが、マンネリ感がある。いい知恵を知りたい。 ・市、校区ごとに行われているものをより細かくわけて行った方が身近に感じる
	5-⑤	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施	・広報は行っているが、読んでもらえているかは不明。講習を受けた子どもの感想も含め広報したら関心が増す
	5-⑥	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発	
DV防止 対策委員会	6-①	男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実	・DV の子どもに対する影響については、面前 DV という言葉で言われているが、とても身近な問題であるにもかかわらずその実態を知る人は多くない。地域の全校区コミュニティーセンターの職員、地域の人々対象に、子どもたちへの影響を伝えるともに、DV 問題の認識を深める講座を計画的に実施する。 ・久留米市として、DV に関する啓発動画を作成 内容の案: DV とは支配であること、身体的なものだけではないこと、子どもに重大な影響を与えること、相談窓口があること、支援を求めてよいことを伝える。 ・DV 防止カードの配布が維持できてなく、汚れたり痛んだカードがそのままになっていたり、カードが空っぽになっている。情報を届けるためには地道な努力と届ける体制が必要なので、恒久的に DV

			防止カードをきちんと届ける体制を構築する。 ・医療職向け、救急隊員、消防署職員、子どもに携わる職場、地域の子育てサロン、教育職場、障がい者・高齢者等さまざまな職種・職場ごとに DV 防止のための動画を作成し、各企業、団体に案内し研修の実施を依頼する。 ・子どもに関わる機関・団体の職員、仕事の現場に対して、施設ごとにアウトリーチでミニ講座を対面+オンラインで実施する。 ・研修においては、必ず、久留米市の DV 相談の窓口を案内する。 ・ここ 2 年はコロナ禍で講座が減り、市民に DV についての情報があまり届いていない。動画配信など家庭で気軽に講座をうけれるような手段も必要。DV という言葉を前面に出さず、気軽に参加出来、DV を知ることができればよい。
	6-②	教育現場等における予防教育の充実	・知識は予防力。分かりやすい知識をグループで遊びながら学ぶ取り組み。コロナ対策、嫌なこと怖い時も話していい事（相談力）の「安全安心カルタづくり」を絵と言葉を子ども達に募集をする。参加商品は社会貢献する商工会議所等の企業から。広報は市報が一番と思う。出来上がったカルタは学校や幼稚園保育園、地域ではコミセンに置く。 ・今年度にじいろ CAP のさくらんぼプログラムを中学校で提供しているが、子供だけでなく保護者や周りの大人にも理解してほしい。模擬ワークショップを地域で行ってほしい。また、子供へワークショップは毎年行ってください（中2対象）
	6-③	パープルリボンキャンペーンの実施	・パープルツリー配置箇所拡大計画　キャンペーン時期に各コミュニティーセンター、市民センター、総合支所にパープルリボンツリーを配布し、その時にパネル展示、詩織の配布なども行いDV や性暴力に関する認識化を図る。 ・パープルリボンの取組はえーるぴあや市役所で見れるが、もう少し範囲を広く出来ないかと思う。公園、図書館、子育て施設、銀行など。子の取り組みに何か参加できることがあればもっとよい。七夕みたいに、親しい人からしてほしいことしてほしくないことを吊り下げるなど
	6-④	医療関係者に対する研修の強化	
	6-⑤	子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実	・安全でない状況のリスクの予防力を子ども自身に提供する SC 事業は 4 対策委員会あると見える。DV、自殺、児童虐待、学校安で、子ども自身の安心感のワーク的な啓発を話し合い、既存事業と包括的事業の検討をする。R4 年度から市事業となっている小学生への CAP ワークで子どもの相談が増えていると思います
自殺予防 対策委員会	7-①	自殺予防に関する普及啓発活動の実施	・ゲートキーパーがもっと地域の組織や行事や学校に入り込み、情報を発信する。何度でもやり直しが効き、いつからでも目指せる仕組みを作る。 ・解決事例紹介のビデオを作って、HP で公開する。それを広報くるめや各まちづくり振興会で QR コードを提供して見てもらう ・自殺の悲惨な状況を一般市民は、その現実を直視したがらない
	7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化	
	7-③	子ども・若者の自殺対策の推進	・保護者も知っておくことが必要。普段の会話の中で SOS の出し方を決めておく。苦しい時は、部屋のドアノブに目印をつける等。 ・久留米市は民間団体が沢山あります。特に子ども食堂活動が地域の出会いの場、SOS をキャッチできる場、相談してみたくなる人との出会いもあると思う。SC の事業の中に、繋がり、SC の成果

			として評価することも地域一体、皆で取り組む枠組みともなると考える。モデル地区を市報や新聞にも掲載する。 ・学校現場の教諭は、自分の生徒が、自殺している現実を知らない。別世界だと思っている。
	7-④	民間団体と協働した相談の実施	・希死念慮の強い者は、相談について考えが及ばない ・きつい人がきついと声を出してくれることが大切だけど、それには街全体がお互いで人間関係を深めていくことが大切 ・社協の支え合い推進会議等とつなぎあって安全安心なまちづくりへとしっかり連携をとっていくことが大切 ・全対策委員会に共通するが、各々がやっている素晴らしい取組を市民に発信していくことが大事
	7-⑤	生活困窮者からの相談支援	・生活自立支援センターと他の相談支援機関とで連携し、他の機関が見つけたケースについても共有する仕組みを作る。 ・市報等の各種も催しのお知らせなどで、少しでも関係がありそうな記事には必ず自立支援センターの紹介もする。テレビ・ラジオ等での周知を行う。 ・解決事例紹介のビデオを作って、HP で公開する。それを広報くるめや各まちづくり振興会で QR コードを提供して見てもらう
防災 対策委員会	8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施	・図上訓練でも実際の訓練でも昼間は高齢者しかいないからできないと初めからしない自治会長では困ります。初めは、老老避難訓練から初めてはどうでしょうか。また、グランドゴルフの帰りなどを使ってやる。できることからする。
	8-②	防災に精通しているリーダーの育成	・広報に災害の援助を促して常に記載し個人の参加を募る
	8-③	避難行動要支援者名簿の登録促進	・要支援者自身への個別支援計画の周知を進める。（本人に直接関係する部分だけでも、大きなわかりやすい文字や図で） ・名簿登録ができても次に進まないと絵に描いた餅です。私が住んでいるところでは、それを地図に落とし込んいますが、それからは進みません。まずは、その地図を囲んで、自治委員・民生委員・老人会代表・自治会長などが確認をすることではないでしょうか。
	8-④	避難行動要支援者個別支援計画の充実	・図上訓練の参加者を拡大させる（学校、子ども会や PTA、育成会や身障協会、地元企業、事業所、福祉法人等へも参加呼びかけの声掛けをする） ・自らでプランを作成する「セルフプラン」の普及を図る（校区で実施する高齢者学級などで実施する。あるいは作成するための講座を行うなど）。 ・自分でできる人は自分で作る ・計画策定支援サークルの結成
	8-⑤	地域の避難計画を作成	・自分の身は自分で守る。ウォーキング方式で楽しみながら参加し危険な場所等を確認する